

平成23年度
「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検・評価」報告書



平成24年9月
美幌町教育委員会

教育委員会の主な事務の管理・執行状況の点検・評価並びに町議会への報告と町民への公表について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成20年4月より、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。

点検及び評価を行うに当たっては、「教育に関する学識経験者を有する方の知見の活用を図る」ものとされ、点検・評価の具体的な項目や指標については、国で項目等は定めず、各教育委員会が、実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくこととなります。

美幌町教育委員会は、地教行法に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民の皆さまへの説明責任を果たすため、教育目標に基づく主な施策・事業について点検評価を行い、報告書としてまとめました。

なお、本年度は5年目であり、教育に関し学識経験を有する方によるご意見、ご指導はいただいておりますが、教育委員の意見を付し、その内容を報告しております。

学識経験を有する知見の活用については、今後引き続き評価方法の見直しの中で検討してまいります。

平成24年9月

美幌町教育委員会

目 次

1. 教育委員会の点検・評価について	1
(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正	1
(2) 点検・評価の導入目的	1
(3) 学識経験者の知見の活用	1
2. 教育施設の利用状況等について	2～7
3. 美幌町教育委員会の点検・評価について	8
(1) 目 的	8
(2) 実施方法	8
4. 点検・評価の結果について	9～58
(1) 教育委員による意見・評価等	9～11
(2) 教育委員会	12～18
(3) 学校教育グループ	19～26
(4) 学校給食グループ	27～29
(5) 社会教育事業の「第6次美幌町社会教育中期計画」に基づく総括評価	30～31
(6) 社会教育グループ総括評価	32～33
(7) 図書館グループ総括評価	34～36
(8) 博物館グループ総括評価	37
(9) スポーツ振興グループ総括評価	38～39
(10) 社会教育グループ実施事業の評価	40～46
(11) 図書館グループ実施事業の評価	47～49
(12) 博物館グループ実施事業の評価	50～52
(13) スポーツ振興グループ実施事業の評価	53～56

1. 教育委員会の点検・評価について

(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正

平成20年4月の地教行法の一部改正により、教育委員会は、教育委員会の責任体制の明確化の観点から、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。(同法27条)

(2) 点検・評価の導入目的

教育委員会制度は、市町村長から独立した機関であり、合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育事務を執行するものです。

この改正において、教育委員会自らが点検及び評価を行い、その結果を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たすことを目的としています。

点検・評価の具体的な項目や指標については、国で項目等は定めず、各教育委員会が、実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくことになります。

(3) 学識経験者の知見の活用

点検及び評価を行うに当たっては、あくまでも客観性を確保するという趣旨によるものであり、点検・評価の方法や結果について意見を聴取する機会を設けるなど、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることと規定されました。

なお、どのような学識経験者の知見を活用するかについては、各教育委員会で工夫することとなっており、引き続き次年度以降の課題となっています。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 教育施設の利用状況等について
 (1) マナビティセンター利用状況

平成23年4月～平成24年3月

月別	大研修室		研修室(1)		研修室(2)		研修室(3)		研修室(4)		会議室		小会議室		和室(1)		和室(2)		陶芸室		木工芸室		手工芸室		計		
	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数
4月	53	1,006	26	248	25	288	27	318	17	306	33	276	23	116	3	8	7	34	38	228	22	158	23	188	297	3,174	
5月	47	706	27	239	25	282	26	262	23	320	28	181	15	72	4	16	8	37	24	157	25	158	23	155	275	2,585	
6月	48	629	21	240	22	223	29	292	23	248	29	177	24	110	3	10	8	42	31	181	12	83	26	153	276	2,388	
7月	51	840	28	282	27	268	23	206	26	311	36	253	24	139	6	51	7	34	28	145	2	12	26	197	284	2,738	
8月	46	1,099	22	226	22	187	20	183	15	183	25	178	18	66	5	24	10	52	30	146	18	86	30	182	261	2,612	
9月	53	945	26	223	24	208	19	199	23	297	28	205	15	71	4	39	7	50	27	140	16	81	25	153	267	2,611	
10月	48	732	24	188	23	225	28	249	23	286	22	153	20	138	3	11	5	22	41	223	24	134	32	172	293	2,533	
11月	48	1,001	33	345	28	336	20	198	25	321	26	168	27	203	6	49	8	45	28	198	23	126	28	154	300	3,144	
12月	37	688	25	289	23	277	24	239	28	270	19	168	20	145	4	8	7	24	23	147	24	142	27	175	261	2,572	
1月	41	910	24	178	26	205	27	272	33	469	16	170	14	94	4	20	6	30	30	177	20	105	24	159	265	2,789	
2月	53	1,187	28	235	30	301	38	312	27	226	22	197	28	191	5	13	8	25	27	164	24	137	27	166	317	3,154	
3月	53	888	27	267	29	338	33	324	32	456	31	238	25	152	2	6	5	20	28	171	19	98	26	168	310	3,126	
計	578	10,631	311	2,960	304	3,138	314	3,054	295	3,693	315	2,364	253	1,497	49	255	86	415	355	2,077	229	1,320	317	2,022	3,406	33,426	

(2) 図書館現況

① 資料状況

蔵書冊数

平成23年4月～平成24年3月

分類	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会	4 自科	5 工学	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	計
蔵書	冊 7,734	3,574	11,935	15,253	7,947	8,406	3,844	28,339	1,774	46,424	135,230
児童書 (内数)	冊 334	323	1,596	1,544	3,187	1,113	595	18,497	396	13,566	41,151
率	% 5.7	2.6	8.8	11.3	5.9	6.2	2.8	21.0	1.3	34.4	100.0

年度別蔵書、購入冊数及び貸出冊数

区 分	蔵書冊数	購入冊数	貸出冊数
平成14年度	115,413	5,692	130,935
平成15年度	117,542	6,025	145,541
平成16年度	121,797	5,479	147,435
平成17年度	123,213	5,115	145,018
平成18年度	124,602	5,087	152,001
平成19年度	126,706	5,913	158,715
平成20年度	128,220	5,166	159,783
平成21年度	129,280	5,544	164,144
平成22年度	131,344	5,674	162,119
平成23年度	135,230	7,039	167,227

② 貸出状況

月刊貸出状況 (総括)

平成23年4月～平成24年3月

区分	開館日数	児童書	一般書	合計冊数	1日平均
4月	25	4,613	8,878	13,491	540
5月	23	5,504	8,583	14,087	612
6月	23	5,240	7,440	12,680	551
7月	25	6,909	9,152	16,061	642
8月	26	6,183	8,454	14,637	563
9月	23	4,368	7,959	12,327	536
10月	25	5,767	8,293	14,060	562
11月	24	6,379	8,433	14,812	617
12月	25	6,132	7,976	14,108	564
1月	21	5,034	7,934	12,968	618
2月	24	5,065	8,587	13,652	569
3月	25	5,445	8,899	14,344	574
計	289	66,639	100,588	167,227	579

分類	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会	4 自科	5 技術	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	計
貸出冊数	冊 9,767	3,265	5,333	5,885	5,737	15,763	2,905	53,877	1,169	63,526	167,227
率	% 5.9	2.0	3.2	3.5	3.4	9.4	1.7	32.2	0.7	38.0	100.0

③ 館外活動

ユニットライブラリー

平成23年4月～平成24年3月

区 分	美 富	南	計
貸出冊数	冊 524	冊 394	冊 918
1ヵ月平均	44	33	77

(3) 博物館
① 入館者状況

平成23年4月～平成24年3月

月別	開館 日数	幼 児	小中学生	高 校 生	大 人			計
					有 料		無 料	
					一 般	団 体		
4月	26	13	30	0	100	0	134	277
5月	25	144	481	2	185	61	502	1,375
6月	26	12	112	9	76	0	221	430
7月	27	25	201	0	96	20	168	510
8月	26	53	149	9	131	0	173	515
9月	26	81	418	8	88	24	515	1,134
10月	26	39	71	10	62	53	196	431
11月	24	23	116	3	69	0	176	387
12月	25	20	48	0	13	0	114	195
1月	21	29	41	0	18	0	76	164
2月	25	48	146	0	32	0	292	518
3月	26	25	169	10	66	0	182	452
計	303	512	1,982	51	936	158	2,749	6,388

② 事業参加状況

平成23年4月～平成24年3月

事業名	モノ作り 講座	自然講座	びほろふるさと 体験隊	学校連携 事業	講師依頼 (各団体より)	その他の事業 (含プチ工房)	計
回数	22	6	8	15	17	10	78
人数	304	186	106	533	464	1,391	2,984

(4) トレーニングセンター利用状況

平成23年4月～平成24年3月

月別	大研修室		調理実習室		視聴覚室		図書室		和室		トレーニングルーム	計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	人数	団体数	人数
4月	46	674	12	229	9	115	9	63	17	174	830	93	2,085
5月	37	431	7	54	9	126	6	51	22	179	642	81	1,483
6月	38	404	11	82	9	112	7	53	16	92	551	81	1,294
7月	40	573	14	164	8	135	6	52	19	119	498	87	1,541
8月	34	381	8	79	6	99	5	51	13	71	443	66	1,124
9月	40	479	12	186	14	358	11	225	18	196	442	95	1,886
10月	41	487	7	78	14	200	6	40	20	167	608	88	1,580
11月	52	942	17	275	18	299	11	61	17	231	847	115	2,655
12月	41	582	12	196	11	214	7	122	13	166	834	84	2,114
1月	36	392	6	42	7	78	3	22	16	98	781	68	1,413
2月	45	557	9	148	11	124	5	40	19	123	852	89	1,844
3月	35	503	10	63	13	144	3	18	13	76	955	74	1,759
計	485	6,405	125	1,596	129	2,004	79	798	203	1,692	8,283	1,021	20,778

(5) スポーツセンター利用状況

平成23年4月～平成24年3月

月別	個人			団体		主催事業		計
	小、中学生	高校生	一般	件数	人数	回数	人数	
4月	1,010	114	1,221	13	589			2,934
5月	602	172	875	6	561	2	139	2,349
6月	732	23	836	6	641	2	140	2,372
7月	567	62	904	10	350			1,883
8月	303	55	708	11	600			1,666
9月	469	81	758	15	1,748	9	594	3,650
10月	629	34	975	29	1,143	5	182	2,963
11月	1,284	68	995	14	2,406	19	677	5,430
12月	1,049	145	935	20	2,140	8	135	4,404
1月	725	69	1,031	15	635	3	272	2,732
2月	886	102	1,198	10	888	6	157	3,231
3月	937	206	1,102	15	661	1	24	2,930
計	9,193	1,131	11,538	164	12,362	55	2,320	36,544

(6) あさひ体育センター利用状況

平成23年4月～平成24年3月

月別	個人			団体		主催事業		計
	小、中学生	高校生	一般	件数	人数	回数	人数	
4月	287	10	1,236	1	37			1,570
5月	293	4	843	2	61			1,201
6月	354	11	999	2	62			1,426
7月	313	15	865	2	85			1,278
8月	293	9	794	2	71			1,167
9月	350	15	731	3	436			1,532
10月	413	12	887	1	60			1,372
11月	369	10	994	3	100			1,473
12月	342	13	940	3	93			1,388
1月	249	5	879	3	117			1,250
2月	337	6	1,051	2	79			1,473
3月	405	10	1,230	2	20			1,665
計	4,005	120	11,449	26	1,221			16,795

(7) B&G海洋センター利用状況

平成23年5月～10月

月別	日	個人				団体		主催事業		計
		幼児	小中学生	高校生	一般	件数	人数	回数	人数	
5月	26	25	92	1	206	15	428			752
6月	30	41	597	6	346	25	975			1,965
7月	31	109	662	13	531	39	1,192	2	316	2,823
8月	31	217	705	38	692	68	1,556			3,208
9月	30	30	75	2	271	21	580			958
10月	31	2	49		209	16	506	2	239	1,005
計	179	424	2,180	60	2,255	184	5,237	4	555	10,711

(8) リリー山スキー場利用状況

① 利用実績

平成23年12月～平成24年3月

項目	利用 日数	リフト 輸送人員	一般利用		スキー授業		自衛隊 訓練	指導者	ソリ	計
			大人	小人	小学生	中学生				
日数等	79	197,905	4,875	5,226	3,088	1,071	1,755	492	1,418	17,925

② 券売実績

平成23年12月～平成24年3月

月別	シーズン券		日中券		4時間券		回数券		1回券		教育券	計
	大人	小人	大人	小人	大人	小人	大人	小人	大人	小人		
12月	99	66	6	33	230	207	86	64	27	16		834
1月	31	19	11	60	577	925	395	459	178	136		2,791
2月	1	1	8	53	356	484	179	240	126	83		1,531
3月				12	34	61	5	7	37	22		178
計	131	86	25	158	1,197	1,677	665	770	368	257		5,334

(9) 網走川河畔公園パークゴルフ場利用状況

① 利用実績

平成23年5月～10月

月別	コース			計
	いっぴき・さくら	しらかば	大正橋	
5月	4,330	1,014	502	5,846
6月	4,626	1,003	494	6,123
7月	4,489	857	472	5,818
8月	4,152	529	617	5,298
9月	3,973	1,260	643	5,876
10月	5,731	644	455	6,830
計	27,301	5,307	3,183	35,791

② 券売実績

平成23年4月～10月

月別	シーズンパス						1日券利用者		計
	65歳未満		65歳～75歳未満		75歳以上		町内	町外	
	男	女	男	女	男	女			
4月	30	22	120	90	34	5			301
5月	21	12	78	45	17	11	522	121	827
6月	1		5	2	4	2	527	371	912
7月	2		3	4	5	4	500	404	922
8月					3	4	382	295	684
9月							476	197	673
10月							422	381	803
計	54	34	206	141	63	26	2,829	1,769	5,122

3. 美幌町教育委員会の点検・評価について

(1) 目的

- ① 毎年、教育に関する事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、町民の皆さまに課題や対応の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進を図ります。
- ② 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に報告（9月まで）するとともに、町民に公表することにより、町民への説明責任を果たすこととします。

(2) 実施方法

- ① 各グループの全体評価（社会教育事業は、社会教育委員の評価も掲載）、或いは今後の課題について記載し、それに基づく教育委員の指摘・評価結果を記載しております。
- ② 点検・評価の対象根拠
美幌町教育目標及び第6次美幌町社会教育中期計画に基づき、主な施策・事務事業について対象としました。

【美幌町教育目標】（昭和58年2月制定）

『人間性豊かな教育を目指して』

今日的に変ぼうする社会情勢の中で、教育の現状を踏まえ、美幌町の美しく豊かな自然環境と、その開拓精神にもとづき、町民ひとりひとりが人間的ふれあいを大事にし、生涯教育への関心を高め、生活・文化の発展をはかるとともに、人間性豊かにして心身共に健全であり、創意に富む児童生徒の育成を目指す美幌町の教育を推進する。

<学校教育>

◎正しい判断と行動のできる児童生徒の育成をはかる学校教育を推進する

- ・自らが学ぶ学習態度の育成と、知性・創造性の啓発を
- ・豊かな心のふれあいを養うとともに、基本的な生活態度の育成を
- ・強じんな精神力・体力の培いを
- ・生命を尊重し、健康と安全の理解と習慣形成を
- ・勤労の尊さの理解と、意欲的な態度の育成を

<社会教育>

◎明るく豊かな町づくりをすすめる社会教育を推進する

- ・町民各層の自主的な学習活動の啓もうと促進を
- ・文化活動並びにスポーツへの親しみを深め、その生活化を
- ・青少年団体の実践活動を促進し、心身の鍛練と連帯の強化を
- ・生涯に生きがいと、明るく楽しみのある生活づくりを

<教育行政>

◎美幌町の教育の発展と充実を期する教育行政を推進する

- ・各学校との連携を密にし、共通の理解に立つ強力な指導体制の確立を
- ・教育環境並びに条件整備の積極的な促進と充実を
- ・町の関係各機関及び諸団体との連携強調をはかり、地域ぐるみの教育の展開を

4. 点検・評価の結果について

(1) 教育委員による意見・評価等

<教育委員会>

- ① 情報の共有化については、事務局と連絡・連携を取りながら、進められていると思います。
- ② 教育委員会定例会等に何名か傍聴する方がいました。新聞等に定例会の案内が掲載されていますが、もう少しこの会議を開催していることを発信し、多くの傍聴者に来てもらえる方法を検討していただきたい。
- ③ 定例会等は基本的に公開で行われており、町民の皆さんから見て興味ある議案が出た時に傍聴者が増えることとなります。傍聴により批判にさらされることもあります。逆に意見反映できる場合もあり、個人情報、町長部局の決定等に関わる以外の内容については、なるべく公開で行うようにしていただきたい。
- ④ 公開、非公開は別にして、問題は教育委員会の顔が見えないところであり、一般の方々から見た時、教育委員会は何をしているのか、内容を町民の皆さんに解りやすく、ホームページの内容の充実であるとか、工夫して顔の見える教育委員会をお伝えすることが必要です。
- ⑤ 定例会等の開催場所についても、役場のみではなく、教育施設であるとか、集会所であるとか、場所を変えて行うことも必要ではないでしょうか。
- ⑥ 児童生徒に重要な事案が発生した時に、教育委員にどんな形で事務方が伝えているのかが問われています。このような時は、「今、何が起きているのか」教育委員は徹底して事務局に説明を求めることが重要で、臨時会等を招集し、実態を確認し、対策を協議することが必要です。
- ⑦ 今後とも事務局は、より早く、多くの情報を伝える努力をして欲しい。また、教育委員は、ものごとに対して敏感か、鈍感かで教育に対する考えが左右してきます。情報の共有化が重要であり、そのためには、さらなる事務局との連携が必要です。

<学校教育グループ>

- ① 各小中学校のトイレは洋式化となっていますが、駅など一部の公共施設では和式も若干残してあります。また、便器に肌を直接つけることを嫌う方もおりますので、教育的配慮等から一部和式のものがあっても良いのではないのかと思います。地域性、時にはキャンプ、災害など場面に応じ、適応できるようにしておかなければと感じます。
- ② 前年度に比べ学力向上の取り組みが行われており、良い傾向と思います。北海道も平成26年度までには全国平均を上回る目標を掲げており、美幌町としても学力向上に向けて進んでおり、併せて道徳、体力の向上も必要です。家庭と連携のうえ生活態度を含めた指導に期待します。
- ③ 小学校では少年団を含め、様々な運動、クラブ活動などが行われていますが、中学校に進学し同じような競技を希望しても、対応できない場合があると聞いています。学校事情、教職員の事情があることは承知していますが、スポーツクラブ、少年団等で一生懸命活動していても、学校のクラブ活動ではないので、通知票等に評価されない場合もあると聞いております。今後、少子化の影響で、学校のクラブ活動もスポーツクラブ等になる可能性もあるので、今後、学校外の活動などの推進の観点からも、学校と地域の連携は、ますます必要となってきます。
- ④ 本年度から中学校で柔道の授業が行われるが、事故の予防に万全を期していただきたい。
- ⑤ 学校の耐震化についても一部を除いて完了しております。早いうちに100%を達成していただきたい。
- ⑥ 管内の町として最初に指導主事の配置をしたことにより、教育委員会と学校とのさらなる連携が図られることを期待します。
- ⑦ コミュニティスクールは、各学校で特色を持って進められていますが、さらなる地域との連携が進むことを期待します。
- ⑧ 色々な社会教育事業（おもしろ科学の祭典など）に教職員がそれぞれの立場で絡んでくれることを期待します。
- ⑨ 国旗掲揚、国歌斉唱については、厳粛に式典として行われており、今後、教職員も、子ども達も、しっかり歌えるよう指導していただきたい。
- ⑩ 美幌町の教育は、保護者や地域、様々な人々との連携・協働を図りながら、地域に開かれ信頼される学校づくりを目指して下さい。

＜社会教育グループ＞

- ① マナビティセンターでは、乳幼児から高齢者まで数多くの事業を実施しています。中には時代にあっていない事業もあると思います。事業の見直しの中で取捨選択を行うことが必要と感じているので、今後とも検討しながら進めていただきたい。
- ② 教育資源リストは、平成8年4月に発行以来、毎年継続して更新されており、小中学校において活用も図られています。更なる活用の推進を願います。
- ③ 「おもしろ科学の祭典inびほろ」は、昨年から会場が各小学校の輪番制となるなど工夫がなされています。今後、地域の保護者の皆さまも参加でき、さらには各小中学校の児童が一人でも多く体験できるよう進めていただきたい。
- ④ 明和大学の入学者は、少なくなってきており、学校祭などそれぞれの活動に苦勞しているようです。町民のみなさんにカリキュラムの内容が周知されていないことも原因としてあるように思われますので、内容をPRし知ってもらい、さらに充実した内容で取り組んで欲しい。また、今後は団塊の世代が明和大学の対象者となるので期待しています。

＜図書館グループ＞

- ① 図書館は、多くの方々からご寄付をいただき、蔵書が13万冊に及び充実が図られていますが、書架設備等のバランスが、今後の課題になりつつあります。
- ② 図書（雑誌、小説）の盗難対策を行っていても盗難が多くあるようです。利用者のモラルが課題であり、今後ともモラルの向上対策に取り組んでいただきたい。
- ③ 駐車場が狭く、イベント時には近隣の空き地を借用して対応しているようですが、入館者に影響することでもあり、何らかの対策が必要です。
- ④ 本年は貸出が増えており、購入冊数も7,000冊を超えている。廃棄する図書も欲しい方に配布を行うなど有効に活用されています。
- ⑤ 夜間開館については、今のところ要望の声は聞こえてきていないようです。人員の配置など課題も多く、実現するにはハードルが高いようですが、検討いただきたい。

＜博物館グループ＞

- ① 調査研究は、理解ある地元の方々から支援・協力してくれていることから、さらに協力員・団体の充実に努めていただきたい。
- ② 体験教室も多く、地域の皆さん、専門的知識をもった方々との連携が非常に強いと感じます。今後とも継続して進めていただきたい。
- ③ 多くの収蔵品、未整理の資料などのデータベース化が図られてきております。今後とも効率的な整理を行っていただきたい。
- ④ 自然講座など各種事業についても、学校教育との連携が図られており、特に子どもや成人を対象にした講座、教室は充実していると思います。今後は高齢者を対象にした講座等の充実も図られるようですので期待をしております。
- ⑤ 博物館も築25年を経て、暖房設備など老朽化が課題になっています。年次的計画的改修を期待します。

＜スポーツ振興グループ＞

- ① NPO体育協会、スポーツクラブ等と連携を図りながら多種多様なスポーツ活動が行われています。生涯スポーツ社会の実現に向け、今後ともさらなる連携・協力を図り進めていただきたい。
- ② スポーツ合宿は、地元子ども達の競技力向上にも貢献し、さらには経済効果も見込まれます。競技場、宿泊施設など制約、課題はありますが、今後とも継続して関係団体と連携し、受け入れ体制の強化・充実に努めていただきたい。
- ③ スポーツ施設は、大規模な施設が多くあり、沢山の町民が利用しています。施設の老朽化に伴い安全で安心してスポーツができる環境整備が必要であり、定期的な点検と計画的な整備を行い維持管理に努めていただきたい。

＜学校給食グループ＞

- ① 日常の食生活の一役を担っている学校給食が、保護者の試食会であるとか、アンケートを取って意見をいただくことで、給食の内容を解ってもらえることができ、大変評価できることなので続けていただきたい。
- ② 地場産品の使用割合は、天候等で手に入らず品目数は下回っていますが、重量では上回っています。今後とも地元産のもの使用割合を高めていただきたい。
- ③ 各学校の保護者対象の給食試食会、さらには新一年生の入学前には各幼稚園を対象に試食会も行われており、給食の理解が進むことになるので、今後も継続していただきたい。
- ④ スクールバスについても、今までどおり安全運転の徹底を図っていただきたい。

(2) 教育委員会

	事務・事業名	事業の目的	手段(手立て)・方法	具体的な活動目標	達成目標(数値目標)	点検・評価(実績達成率)	点検・評価
教育委員会	1. 教育委員会の活性化	<p>教育委員会は、年齢、性別、職業等、人格が高潔で幅広い分野の委員で構成され、合議制の執行機関として、大所高所から基本方針を決定し、その方針の決定を受け、教育行政の専門家として教育長が、事務局を指揮監督して執行する仕組みとなっています。</p> <p>教育委員会は、この役割と責任を明確にし、これまで以上に教育行政の現実を把握し、地域の多様な特性や地域住民の意思を反映させながら、課題解決のため積極的な教育行政を展開し得るよう教育委員会の活性化を推進し、その役割と機能の充実を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適格な教育委員の選任と研修の場、機会の確保 2. 情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営 3. 保護者、地域住民の意向等を反映するための情報収集と提供 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適格な教育委員の選任と研修の場、機会の確保 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育委員の選任 保護者を含め、年齢、女性の登用に留意しながら、教育行政に深い関心と熱意を有し、教育委員に相応しい人材の選任。 (2) 教育委員の研修 教育委員会の審議に適切な判断と決定を行うため、学校、地域の視察、移動教育委員会や美幌町内、北見ブロック等、北海道教育委員研修会への参加、事務局からの情報提供。 2. 情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・今日的な様々な教育課題に対し、情報の共有化により迅速かつ的確に対応できる定例会及び協議会。 ・教育に関する基本方針の決定、教育行政の課題等への取組み策における活発で効率的な対応。 3. 保護者、地域住民の意向等を反映するための情報収集と提供 <ul style="list-style-type: none"> ・学校、保護者、地域住民の多様な要望や意向の把握と情報の共有。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適格な教育委員の選任と研修の場、機会の確保 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育委員の選任 教育委員に相応しい人材の選任と保護者である教育委員への選任。 (2) 教育委員の研修 <ol style="list-style-type: none"> ① 学校現場等視察及び教職員との意見交換による状況把握 <ul style="list-style-type: none"> ・学校視察(町内6小中学校) ・学校給食センター、その他教育施設への視察 ② 各種教育委員研修への積極的な参加により他自治体教育委員との情報、意見交換等による知識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・全道教育委員研修会及び道内視察(7月6日～8日：札幌市) ・北見ブロック教育委員研修会(11月18日：訓子府町) ・網走管内教育委員大会(12月6日：網走市) 2. 情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育委員会定例会議案の事前配布(13回) (2) 教育行政の課題について、定例会にて協議 3. 保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供 <ol style="list-style-type: none"> (1) P T A 連合会役員との懇談(七校の集い) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適格な教育委員の選任と研修の場、機会の確保 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育委員に相応しい人材を選任(保護者である教育委員を含む。) <ul style="list-style-type: none"> (2) 教育委員の研修 (延18名/20名)90% 2. 情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人事、学校の管理運営事項、予算編成方針など、協議会において積極的に情報の共有を図った。 100% (2) 予算編成前に教育委員の意見を聞き、予算に反映させた。 3. 保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供 <ul style="list-style-type: none"> 前年から比較するとP T Aとの懇親など会議の機会は残念ながら減少している。 (延 4名/ 4名) 100% 	<p>本町教育委員会は、定例会等において随時当面する教育行政課題として、各グループで取り組む各種事務事業について事務局より積極的に情報の提供を行ってまいりました。</p> <p>今後とも委員提起の教育行政に関する事項を推進するため、教育委員から事務局が方針作成前・事業実施前に課題を提起いたします。事務局は教育委員に更に多くの情報を提供し、教職員の意向や児童生徒の保護者、地域住民の意向を把握し、教育委員と事務局職員の情報の共有化を図り、教育行政に反映できるよう努めます。</p> <p>本年度から指導主事の配置により、各学校長からの学校経営報告を教育委員会協議会において報告し、学校の経営状況の共有化を図っております。</p> <p>今後とも、教育委員が地域住民と接する機会を多くし、教育委員会定例会の審議記録要旨のホームページ公表等の充実を図り、積極的に広く地域住民に知らしめます。</p> <p>また、教育委員のさらなる意見反映を図るための施策の充実を検討いたします。</p>

○平成23年度 教育委員会議の開催状況

教育委員会の会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を、また必要に応じて臨時会を開催し、平成23年度は合計13回開催しました。そのほかに非公開で連絡事項、諸課題について協議会を開催し、意見交換を行っています。

(1) 美幌町教育委員会 定例会・臨時会

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	類 未
第1回定例会	議案第1号	美幌町就学指導委員会委員の委嘱について	公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第2号	美幌町立学校の学校評議員の委嘱について	公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第3号	美幌町社会教育委員の委嘱について	公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第4号	美幌町体育指導委員の委嘱について	公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第5号	美幌町学校給食運営委員会委員の委嘱について	公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第6号	美幌博物館協議会委員の委嘱について	公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第7号	美幌町図書館協議会委員の委嘱について	公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第8号	平成22年度教育費補正予算の専決処分について（報告）	非 公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第9号	平成23年度教育費補正予算について	非 公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第10号	奨学金貸与金額変更の決定について	非 公 開	平23. 4. 26	決 定
第1回定例会	議案第11号	平成23年度奨学金貸与生の決定について	非 公 開	平23. 4. 26	決 定
第2回定例会	議案第12号	美幌町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例制定について	非 公 開	平23. 5. 25	決 定
第2回定例会	議案第13号	平成23年度教育費補正予算について	非 公 開	平23. 5. 25	決 定
第2回定例会	議案第14号	平成23年度奨学金貸与生の決定について	非 公 開	平23. 5. 25	決 定
第2回定例会	議案第15号	平成23年度教育費補正予算について（追加議案）	非 公 開	平23. 5. 25	決 定
第3回定例会	議案第16号	平成23年6月30日付教育委員会職員の退職について	非 公 開	平23. 6. 28	決 定
第3回定例会	議案第17号	平成23年7月1日付教育委員会職員の人事異動について	非 公 開	平23. 6. 28	決 定
第3回定例会	議案第18号	第9地区教科用図書選定委員会委員候補者の推薦について	非 公 開	平23. 6. 28	決 定
第4回定例会	議案第19号	美幌町教育委員会委員の辞職の同意について	非 公 開	平23. 7. 27	決 定
第4回定例会	議案第20号	平成23年度教育費補正予算について（報告）	公 開	平23. 7. 27	決 定
第5回定例会	議案第21号	平成22年度「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検・評価」報告書の提出について	非 公 開	平23. 8. 23	決 定
第5回定例会	議案第22号	平成24年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について	非 公 開	平23. 8. 23	決 定
第5回定例会	議案第23号	平成24年度使用小学校及び中学校特別支援学級教科用図書（一般図書）の採択について	非 公 開	平23. 8. 23	決 定
第5回定例会	議案第24号	美幌町学校給食センター条例施行規則の一部改正について	公 開	平23. 8. 23	決 定
第5回定例会	議案第25号	美幌町学校給食運営委員会規程の一部改正について	公 開	平23. 8. 23	決 定
第5回定例会	議案第26号	美幌町非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について	非 公 開	平23. 8. 23	決 定

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛 末
第 5 回 定 例 会	議 案 第 2 7 号	美幌町体育指導委員に関する規則の一部改正について	公 開	平 2 3 . 8 . 2 3	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 2 8 号	美幌町体育指導委員会議運営規程の一部改正について	公 開	平 2 3 . 8 . 2 3	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 2 9 号	美幌町教育委員会事務委任規則の一部改正について	公 開	平 2 3 . 8 . 2 3	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 3 0 号	美幌町教育委員会事務局事務分掌規程の一部改正について	公 開	平 2 3 . 8 . 2 3	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 3 1 号	美幌町教育委員会文書取扱規程の一部改正について	公 開	平 2 3 . 8 . 2 3	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 3 2 号	平成23年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 3 . 8 . 2 3	決 定
第 6 回 臨 時 会	議 案 第 3 3 号	美幌町教育委員会委員長職務代理者の指定について	公 開	平 2 3 . 9 . 1	決 定
第 9 回 定 例 会	議 案 第 3 4 号	美幌町就学指導委員会委員の委嘱について	公 開	平 2 3 . 1 1 . 2 2	決 定
第 9 回 定 例 会	議 案 第 3 5 号	美幌町文化財審議会委員の委嘱について	公 開	平 2 3 . 1 1 . 2 2	決 定
第 9 回 定 例 会	議 案 第 3 6 号	平成23年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 3 . 1 1 . 2 2	決 定
第 1 0 回 定 例 会	議 案 第 3 7 号	美幌町立学校設置条例の一部を改正する条例制定について	非 公 開	平 2 3 . 1 2 . 8	決 定
第 1 0 回 定 例 会	議 案 第 3 8 号	美幌町立小・中学校通学区の規制についての一部改正について	非 公 開	平 2 3 . 1 2 . 8	決 定
第 1 0 回 定 例 会	議 案 第 3 9 号	平成23年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 3 . 1 2 . 8	決 定
第 1 1 回 定 例 会	議 案 第 4 0 号	美幌町立学校管理規則の一部改正について	公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	決 定
第 1 1 回 定 例 会	議 案 第 4 1 号	指定管理者の指定について	非 公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	決 定
第 1 1 回 定 例 会	議 案 第 4 2 号	指定管理者の指定について	非 公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 4 3 号	美幌町マナビティーセンター条例の一部を改正する条例制定について	非 公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 4 4 号	美幌町図書館条例の一部を改正する条例制定について	非 公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 4 5 号	美幌町博物館条例の一部を改正する条例制定について	非 公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 4 6 号	美幌町都市公園条例の一部を改正する条例制定について	非 公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 4 7 号	平成23年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 4 8 号	平成24年度教育費予算原案について	非 公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 4 9 号	学校職員の処分内申について	非 公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 5 0 号	美幌町臨時教職員の採用に関する規則の制定について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 5 1 号	美幌町マナビティーセンター条例施行規則の一部改正について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 5 2 号	平成24年4月1日付教職員の人事異動について	非 公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 5 3 号	平成24年4月1日付教育委員会職員の人事異動について	非 公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 5 4 号	美幌町立学校の学校薬剤師の委嘱について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	決 定

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛 末
第 6 回 臨 時 会	選 挙 第 1 号	美幌町教育委員会委員長の選挙について	公 開	平 23 . 9 . 1	決 定

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛 末
第 1 回 定 例 会	報 告 第 1 号	入学式における国旗国歌の実施状況について	公 開	平 23 . 4 . 26	了 知
第 1 回 定 例 会	報 告 第 2 号	寄贈の報告について	公 開	平 23 . 4 . 26	了 知
第 1 回 定 例 会	報 告 第 3 号	平成23年4月1日付け教育委員会職員の人事異動について	公 開	平 23 . 4 . 26	了 知
第 1 回 定 例 会	報 告 第 4 号	平成23年4月16日付け教職員の人事異動について	公 開	平 23 . 4 . 26	了 知
第 2 回 定 例 会	報 告 第 5 号	平成23年第4回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 23 . 5 . 25	了 知
第 2 回 定 例 会	報 告 第 6 号	平成22年度末教育関係基金の状況について	公 開	平 23 . 5 . 25	了 知
第 2 回 定 例 会	報 告 第 7 号	寄附等の報告について	公 開	平 23 . 5 . 25	了 知
第 3 回 定 例 会	報 告 第 8 号	平成23年第5回美幌町議会定例会の開催結果について	公 開	平 23 . 6 . 28	了 知
第 3 回 定 例 会	報 告 第 9 号	寄贈の報告について	公 開	平 23 . 6 . 28	了 知
第 4 回 定 例 会	報 告 第 10 号	平成23年第6回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 23 . 7 . 27	了 知
第 4 回 定 例 会	報 告 第 11 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 23 . 7 . 27	了 知
第 4 回 定 例 会	報 告 第 12 号	寄贈の報告について	公 開	平 23 . 7 . 27	了 知
第 4 回 定 例 会	報 告 第 13 号	平成23年度北海道永年勤続功労社会教育委員表彰受賞について	公 開	平 23 . 7 . 27	了 知
第 4 回 定 例 会	報 告 第 14 号	平成23年度北海道体育指導委員功労者表彰受賞について	公 開	平 23 . 7 . 27	了 知
第 5 回 定 例 会	報 告 第 15 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 23 . 8 . 23	了 知
第 5 回 定 例 会	報 告 第 16 号	平成23年度北海道社会貢献賞（青少年健全育成成功労者）受賞について	公 開	平 23 . 8 . 23	了 知
第 5 回 定 例 会	報 告 第 17 号	寄附の報告について	公 開	平 23 . 8 . 23	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 18 号	平成23年第7回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 23 . 9 . 28	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 19 号	平成23年第8回美幌町議会定例会の開催結果について	公 開	平 23 . 9 . 28	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 20 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 23 . 9 . 28	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 21 号	平成23年度生涯スポーツ優良団体表彰について	公 開	平 23 . 9 . 28	了 知
第 8 回 定 例 会	報 告 第 22 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 23 . 10 . 20	了 知
第 8 回 定 例 会	報 告 第 23 号	寄贈の報告について	公 開	平 23 . 10 . 20	了 知
第 8 回 定 例 会	報 告 第 24 号	平成23年度自治功労者等表彰について	公 開	平 23 . 10 . 20	了 知
第 9 回 定 例 会	報 告 第 25 号	平成23年第9回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 23 . 11 . 22	了 知
第 9 回 定 例 会	報 告 第 26 号	就学時健康診断の結果について	公 開	平 23 . 11 . 22	了 知

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛末
第 9 回 定 例 会	報 告 第 2 7 号	寄贈等の報告について	公 開	平 2 3 . 1 1 . 2 2	了 知
第 1 0 回 定 例 会	報 告 第 2 8 号	平成23年第10回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 2 3 . 1 2 . 8	了 知
第 1 0 回 定 例 会	報 告 第 2 9 号	寄贈の報告について	公 開	平 2 3 . 1 2 . 8	了 知
第 1 1 回 定 例 会	報 告 第 3 0 号	平成23年第11回美幌町議会定例会の開催結果について	公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	了 知
第 1 1 回 定 例 会	報 告 第 3 1 号	高齢者叙勲の決定について	公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	了 知
第 1 1 回 定 例 会	報 告 第 3 2 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	了 知
第 1 1 回 定 例 会	報 告 第 3 3 号	寄附等の報告について	公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	了 知
第 1 1 回 定 例 会	報 告 第 3 4 号	美幌町就学指導委員会の判定結果について	公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	了 知
第 1 1 回 定 例 会	報 告 第 3 5 号	平成24年度教育費予算原々案について	非 公 開	平 2 4 . 1 . 2 4	了 知
第 1 2 回 定 例 会	報 告 第 3 6 号	平成24年第1回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	了 知
第 1 2 回 定 例 会	報 告 第 3 7 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	了 知
第 1 2 回 定 例 会	報 告 第 3 8 号	美幌町栄誉賞の決定について	公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	了 知
第 1 2 回 定 例 会	報 告 第 3 9 号	美幌町スポーツ奨励賞の決定について	公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	了 知
第 1 2 回 定 例 会	報 告 第 4 0 号	寄贈の報告について	公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	了 知
第 1 2 回 定 例 会	報 告 第 4 1 号	損害賠償の額の決定について	公 開	平 2 4 . 2 . 2 3	了 知
第 1 3 回 定 例 会	報 告 第 4 2 号	平成24年第2回美幌町議会定例会の開催結果について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	了 知
第 1 3 回 定 例 会	報 告 第 4 3 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	了 知
第 1 3 回 定 例 会	報 告 第 4 4 号	平成23年度オホーツク管内教育実践表彰の受賞について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	了 知
第 1 3 回 定 例 会	報 告 第 4 5 号	寄贈等の報告について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	了 知
第 1 3 回 定 例 会	報 告 第 4 6 号	卒業式における国旗国歌の実施状況について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	了 知
第 1 3 回 定 例 会	報 告 第 4 7 号	美幌町立学校特別支援学級の開設について	公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	了 知
第 1 3 回 定 例 会	報 告 第 4 8 号	教育委員会職員の懲戒処分について	非 公 開	平 2 4 . 3 . 2 7	了 知

(3) 平成23年度美幌町教育委員会諸活動（参加者は、教育長を除く委員4名延べ日数で積算）

年 月 日	用 務	参加者	備 考
平成23年 4月 1日	教育委員会職員辞令交付式	1	
平成23年 4月 4日	教職員着任式	4	
平成23年 4月 6日	美幌小学校、東陽小学校、旭小学校、福豊小学校入学式	4	
平成23年 4月 7日	美幌中学校、北中学校入学式	2	
平成23年 4月 9日	美幌高等学校入学・開校式	2	
平成23年 4月13日	明和大学入学式・開講式	1	
平成23年 4月26日	第1回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年 5月10日	第4回美幌町議会臨時会	1	
平成23年 5月14日	美幌町PTA連合会総会・交流会	4	
平成23年 5月25日	教育関係施設視察(美幌小学校、東陽小学校、学校給食センター)、第2回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年 6月 7日	オホーツク管内教育委員会協議会総会（網走市）	1	
平成23年 6月17日	美幌高等学校開校記念祝賀会	1	
平成23年 6月21日～23日	第5回美幌町議会定例会	1	
平成23年 6月28日	教育関係施設視察(美幌中学校、トレーニングセンター、博物館、文化ホール)、第3回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年 6月30日	教育委員会職員退職辞令交付式	1	
平成23年 7月 1日	教育委員会職員辞令交付式	1	
平成23年 7月 6日～ 8日	第48回北海道市町村教育委員大会・道内視察（札幌市）	12	
平成23年 7月14日	第6回美幌町議会臨時会	1	
平成23年 7月22日	美幌町PTA交流会 7校の集い	4	
平成23年 7月27日	第4回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年 8月23日	教育関係施設視察(旭小学校)、第5回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年 8月20日	第25回美幌100kmデュアスロン大会開会式	1	
平成23年 8月25日	第7回美幌町議会臨時会	1	
平成23年 8月31日	山内委員長退任辞令交付式	1	
平成23年 9月 1日	第6回美幌町教育委員会臨時会	4	
平成23年 9月13日～15日	第8回美幌町議会定例会	1	
平成23年 9月28日	教育関係施設視察(北中学校)、第7回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年10月 1日	東陽小学校開校60周年記念事業	4	
平成23年10月 7日	特定非営利法人美幌町体育協会体育賞表彰式・講演会	1	
平成23年10月20日	第8回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年11月 1日	第9回美幌町議会臨時会	1	
平成23年11月 3日	美幌町自治・文化・スポーツ功労者等表彰式	1	
平成23年11月18日	北見ブロック教育委員研修会（訓子府町）	3	
平成23年11月22日	教育関係施設視察(福豊小学校、文化ホール)、第9回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年11月26日	福豊小学校開校100周年記念式典	4	
平成23年11月27日	旭小学校開校30周年記念式典	4	
平成23年11月28日	第10回美幌町議会臨時会	1	
平成23年12月 6日	オホーツク管内市町村教育委員会研修会	3	
平成23年12月 8日	第10回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年12月13日～14日	第11回美幌町議会定例会	1	
平成24年 1月 4日	美幌町新年交礼会	4	
平成24年 1月 8日	美幌町成人の集い	4	
平成24年 1月24日	第11回美幌町教育委員会定例会	4	
平成24年 2月 3日	美幌町スポーツ奨励賞表彰式（大和田立君）	1	
平成24年 2月21日	第1回美幌町議会臨時会	4	
平成24年 2月23日	第12回美幌町教育委員会定例会	4	
平成24年 3月 7日	明和大学卒業・修了式	1	
平成24年 3月 8日～21日	第3回美幌町議会定例会	2	
平成24年 3月15日	美幌中学校、北中学校卒業式	2	
平成24年 3月19日	美幌小学校、東陽小学校、旭小学校卒業式	3	
平成24年 3月22日	オホーツク管内教育実践表彰伝達式（一戸誠太郎君）	4	
平成24年 3月23日	福豊小学校卒業式	1	
平成24年 3月27日	第13回美幌町教育委員会定例会	4	
平成24年 3月29日	美幌町スポーツ奨励賞伝達式（竹内奈美さん）	1	
平成24年 3月30日	教職員及び教育委員会職員退職者辞令交付式	1	

(3) 学校教育グループ

平成23年度学校教育グループ総括評価

1. はじめに

美幌町の教育全般の課題解決のため、学校、家庭、地域など、社会全体が協力して教育を進めることが重要となっております。平成23年度からは新しい教育基本法の理念に基づいた「学校教育法」がスタートし、義務教育の目標新設、各学校の目的・目標の見直しなどが進められています。

美幌町においては美幌町教育目標の実現に向け、各学校長が特色ある経営方針を立て、種々の重点課題を設定し、教育課題の解決を図っております。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会の責任体制の明確化や学校体制などの充実を図り、さらには地方分権の推進、国、地方の責任の果たし方など、義務教育の理念を具体化するための施策の充実等に取り組んで参ります。

2. 具体的な取組の概括的評価及び改善の方策

I 学校教育においては「正しい判断と行動できる児童生徒の育成をはかる学校教育を推進する」という美幌町教育目標が定められています。

これらの方針を基に具体的な取り組みについて述べて参ります。

(1) 「自ら学ぶ学習態度の育成と、知性・創造性の啓発を」

平成23年度の主な取り組みとして、引き続き①学校評価を実施し、同時に②保護者アンケートも行い、さらに踏み込んで児童生徒の学校評価についても検討し、広く町民に公表し、今後の学校活動に役立てて参ります。

また、平成23年度から新たに③小学校における外国語活動が実施され、各小学校において更なる研究活動を行い、学力向上のため④全国学力学習状況調査の活用、⑤少人数指導として二人の教員によるT・T（チームティーチング）を引き続き導入し習熟度別教育として、⑥指導方法工夫改善を図りました。

今後の課題として、町民から①信頼され、開かれた学校、②学力向上対策の強化、③小・中学校の授業交流など学校種間連携、④長期休業中における補習授業の検討、⑤日常の読書活動の推進をさらに図って参ります。

(2) 豊かな心のふれあいを養うとともに、基本的な生活態度の育成を

平成23年度の主な取り組みとして、事件事故に巻き込まれないための①携帯電話、コンピューター等に関する取扱講習会の実施、学校保健安全法による②児童生徒の健康診断を実施しました。

生徒指導の充実では、非行の未然防止、創造的育成を目指し、関係機関との連携を図って参りました。

学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、地域社会と連携を図るため③道徳授業の公開実施を行いました。

発達障害を含む障害のある児童生徒を支援するため、学校の要望により④特別支援学級への介助員配置を行いました。さらには、特別支援教育の充実として個々に応じた個別指導計画、個別支援計画を順次作成し取り組んでおります。

また、近年は普通学級におけるLD、ADHDの疑いのある児童が見られ、その対応として、⑤普通学級における学習支援員（介助型）を学校の要望により配置しました。

今後の課題として、図書傷みの激しいため①学校図書費予算の更なる増額、②学校支援地域本部事業に代わり従来から行っている地域力を活かした学校支援事業の検討、社会教育と連携した子どもだけでなく、保護者・大人も参加できる③長期休業中の体験プログラムの充実検討、④国旗掲揚、国歌斉唱の適切な指導を行い、児童生徒が自然に歌うことができる取り組み、また、⑤いじめ問題の継続的取り組み、⑥放課後子どもプランなどが検討課題となっております。

(3) 強じんな精神力・体力の培いを

平成23年度の主な取り組みとして、①全国体力運動能力テストを実施し、その活用を図りました。また、従来から行っている水泳授業、

スキー・スケート授業などの②外部講師の活用を図りました。

さらに義務教育における③各種スポーツ大会、吹奏楽大会への助成を行い、各種活動の育成と助長を図りました。

今後の課題として、①少年団活動との連携による活用と推進、②冬期スポーツの積極的な取り組み、③新学習指導要領に示されている中学校における武道・和楽器への取り組みとなっております。

(4) 生命を尊重し、健康と安全の理解と習慣形成を

平成23年度の主な取り組みとして、全町的な取り組みである児童生徒の①交通安全指導を随時実施いたしました。

また、非行防止の観点から②薬物乱用防止教室の実施を行い、③街頭指導（お祭り、盆踊り等）、社会問題化している④不審者対策として引き続き「不審者情報メールの配信」を行い、注意喚起を行っております。

学校における心臓突然死の救命向上のため、引き続き全校に⑤AEDを整備しております。

今後の課題として、①望ましい家庭教育に向けた情報発信の検討、②学校におけるフッ化物洗口の実施、③学校災害共済制度システムを学校において円滑に実施できるよう進めて参ります。

(5) 勤労の尊さの理解と、意欲的な態度の育成を

平成23年度の主な取り組みとして、教育課程の①特別活動として、学級会、児童会、クラブ活動、学校行事などを積極的に展開しております。

今後の課題として、①地域と一体となった活動の推進、②外部講師のさらなる活用、③少年団活動など各種団体との連携などが必要となっております。

II 教育行政では「美幌町の教育の発展と充実を期する教育行政を推進する」という美幌町教育目標が定められています。

これらの方針を基に具体的な取り組みについて述べて参ります。

(1) 各学校との連携を密にし、共通の理解に立つ強力な指導体制の確立を

平成23年度の主な取り組みとして、網走教育研修センターなどを活用し①教職員の研修の実施を行っておりますが、参加状況は芳しくありません。さらなる意識改革を図って参ります。

不登校などの教育相談充実のため②教育相談員体制を継続して実施しており、学校、町の児童支援担当、保健師、児童相談所などの関係機関と連携した取り組みを行いました。

特別に支援を要する児童生徒の就学について、個々の事例により情報交換を行う③就学指導委員会を開催し、特別支援学級、特別支援学校などの就学の判断材料としております。

今後の課題として、今まで以上に①誇りと使命感に満ちた信頼される教職員の確保・育成が必要となってきます。また、積極的に②校内研修、③教育局指導主事による授業研究協議の推進(A形態：全職員参加型研究協議)、④町指導主事による教育課程、学習指導など専門的事項の指導助言を行い、指導体制の確立を図って参ります。

(2) 教育環境並びに条件整備の積極的な促進と充実を

平成23年度の主な取り組みとして、引き続き①各学校コンピューター40台を目標に整備を実施いたしました。

なお、学校危機管理マニュアルを作成することにより、不測の事態の備えを行っております。また、生活困窮世帯に対して学用品・新入学用品・修学旅行費・体育実技用具費・医療費・給食費、PTA会費などを毎年度継続して②就学援助しております。

複式校解消では、教育委員会の基本方針に則り、学校が統合された地域の児童生徒に対して、③統合地区通学費助成を継続実施しております。

今後の課題として、生活困窮世帯に対する①要保護・準要保護就学支援事業の拡充検討、町内1校となった福豊小学校の②複式校解消、建築経年による③教育施設の大規模改修、④教職員コンピュータの更新整備、⑤校舎耐震化の推進、⑥小中学校の適正配置の検討、⑦学校ICT(情報Information、通信Communication、技術Technology)の環境整備、⑧各小学校のプール水槽塗装改修、⑨各小学校遊具の更新、⑩各小

中学校トイレの洋式化、ボイラー等の設備更新などが必要となっております。

(3) 町の関係各機関及び諸団体との連携強化をはかり、地域ぐるみの教育の展開を

平成23年度の主な取り組みとして、毎年継続している町内に2園ある幼稚園に①私立幼稚園就園奨励費補助、及び園児の教材費、教員の研修費として②私立幼稚園振興補助金により支援しております。

そのほか地域の学校教育の発展のため、高等学校以上を対象とした③奨学金制度の見直しを行い、④PTAとの懇談、⑤外部講師の活用などに取り組みました。

今後の課題として、近年の経済情勢を反映した使い勝手の良い①地域住民による支援事業のさらなる有効活用、②公立高等学校の再編後の支援体制の検討が必要となっております。

3. おわりに

平成23年1月に会計検査院による会計実地検査が実施され、教職員の服務規律違反の実態が明らかになり、その結果に基づき服務規律の厳格な保持が求められております。教職員の自立性を発揮しつつ学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めることが重要となっております。

法令遵守とともに信頼に応える学校の自主性・自律性を高める上で、平成23年度は美幌町内全ての小・中学校で評価及び、保護者アンケートに加え、児童生徒のアンケートなども検討し、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展に取り組んで参りました。

また、学校が保護者・地域の期待に応えるためには、学習指導要領、教育課程など取り組むべき内容の説明責任(具体的例として、何年生の何学期、算数においては足し算と引き算をどのレベルまで進めるのかなどの説明、公表)を果たし、家庭や地域と一体となって連携協力を進めていく必要があります。

美幌町においては、よりよい学校を作り上げるため各組織の整理活用を促進し、教育委員会の活用、学校運営に関する協議の場の設置について検討の必要があります。

学校教育を推進するためには、教職員の責務は非常に大きく、教職員の教育への誇りと使命感に満ち、子どもたちはもとより、広く社会から尊敬され、信頼される質の高さの維持が求められています。

美幌町の目指す教職員像は、子どもたちへの深い愛情、高い人格と豊かな識見、生きる力を育む確かな指導力、自ら学び続ける心豊かな教職員であるために資質の向上を高めることで、子どもたちの資質も確実に向上します。

そのため北海道教育委員会が所管する人事異動において優秀な人材を確保し、様々な提案を行いつつ、町内学校長の強力なリーダーシップのもと、素養に優れた人材である教職員のさらなる育成を期待するところです。

また、「教職員に求められる資質能力と研修」には、学校の主体性を重視した校内研修の充実、網走教育研修センターの活用、さらには北海道教育委員会義務教育指導班の指導主事、町指導主事による授業の研究協議、意見交換、指導助言を積極的に活用する必要があります。

さらに校長のリーダーシップのもと、豊かな人間性を持った専門性の高い教職員が力を発揮する場面を公開することにより、保護者への説明責任を果たすことになり、地域の理解が得られるものと確信しております。

美幌町の学校教育は、保護者や地域、様々な人々との連携・協働を図りながら、地域に開かれた信頼される学校づくりを目指します。

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
1 幼稚園 教育の 充実	1. 私立幼稚園就園奨励費補助事業	本町の幼稚園教育は、大谷、藤の私立2園の幼稚園により運営されており、その重要な役割にかんがみ、私立幼稚園の教育条件の維持及び向上を図るとともに、幼児に係る就園上の経済的負担の軽減、健全な発達に資することを目的とし、保護者の所得に応じて補助する。 (対象園児325名、補助金額27,476千円)	本年度についても、小学校3年生までに兄・姉を有する園児も第3子以降の優遇措置の対象とし、一層の負担軽減を図るため補助単価の引き上げを行っている。 この結果、対象園児は326名、補助金支払額は23,271千円となった。	本補助事業は、国の補助事業であり、補助率は1/3となっているが、実際には国の総予算の総枠の中で配分されており、さらに配分率が73.01%となっており、実際の補助金は減額されている状況である。 昨年度の補助金支払額24,512千円であり、平成23年度は1,241千円の減少であった。 近年、少子化の対策として、保護者負担の一層の軽減を図るため拡充がなされているが、これにより町負担の増加が懸念されている。
	2. 私立幼稚園振興補助事業	本町私立幼稚園の果たす重要な役割にかんがみ、教育条件の維持及び向上を図るとともに、私立幼稚園の健全な発達に資することを目的とし、教職員の研修活動及び園児の教材費に対し、その一部を助成する。 (研修費・教職員14名×45,000円、教材費・園児335名×3,600円、合計1,836千円)	本事業は実績報告書から、教職員の研修、研究事業及び、幼稚園教具・教材の充実に役立っており、保育活動に寄与している。 実績は、教職員・園児数の減少により、1,499千円であった。	少子化の影響で、美幌町内では年間200名以下の出生者数であり、今後、減少傾向にある。 幼稚園、保育園、季節保育所、民間保育所では定員割れの恐れがある。 今後は、幼児教育並びに幼児保育の在り方について、美幌町としての様々な施策の調整、検討が必要である。
2 小中学校 の教育 環境の 充実	1. 学校校舎耐震化整備事業	地震防災緊急事業五箇年計画により、昭和56年以前に建設された公立小中学校においては、地震防災上改築及び補強が必要と認められるか判断するため、耐震診断を実施する。	平成19年に旭小学校耐震診断業務委託(委託料3,990千円)を行い、診断結果は、耐震診断指標値を越えており、耐震性は現状で満足されていた。 本町で耐震診断が残されている学校は、東陽小学校校舎の一部(旧校舎であり、現在は用具準備室となっている。)、福豊小学校校舎(木造建築の一部鉄骨校舎部分)。美幌中学校校舎、屋体となっている。 東陽小学校は教室として使用していないため、また、福豊小学校は複式校統合へ向け地域と協議を続けており、耐震診断は実施しない。	残る美幌中学校については、美幌高校校舎(築30年)・校地を北海道から譲渡を受け、平成24年4月1日付け移設を行う。
	2. 学校教職員コンピュータ整備事業	近年の情報処理技術、通信技術の急速な発展に伴い、教職員相互間のネットワーク化、多岐にわたる事務処理の効率化、省力化を推進し、専用サーバーによる個人情報の管理徹底を図るため、教職員一人1台のコンピューターを更新整備する。	本事業は、平成19年度から町内の小中学校へ導入するため計画的に進められており、平成21年度は当初、旭小学校のみの整備予定であったが、地域活性化・経済危機対策臨時交付金の活用を強く要望した結果、未整備校へ導入することができた。 今後はコンピューターの更新計画により更新する。	各小中学校に対する教職員用PCの整備は、平成21年度において完了しているが、一定の時期には更新が必要となり、同様の財源が必要となる。 また、日進月歩の情報技術の進展により、コンピューターの整備は当然として、インターネットによるレンタルサーバー、授業への活用、個人情報の保護等に引き続き取り組む必要がある。
	3. 自動体外式除細動器整備事業(AED)	心臓突然死の救命率向上に自動除細動器(AED)の使用の有用性が述べられ、国内の様々な施設でおかれるようになりました。学校管理下での死亡は、毎年200件以上あり、心臓病が70~85%(聖マリアンナ医大調べ)で、激しい運動中におきる突然死はほとんど心臓の異常で、高学年男子に多いとされているため、本町においては各小中学校施設全てに整備し、救命率の向上を図る。	平成19年度に美幌中学校、北中学校を整備し、平成20年度に美幌小学校、東陽小学校、旭小学校、福豊小学校への整備を行い、小中学校については完了した。 ～5年リース～ 中学校(5,145円×2校×12ヵ月=123,480円)h19契約 小学校(3,990円×4校×12ヵ月=191,520円)h20契約	小・中学校全校に整備済みであり、近くの住民が公共施設である学校のAEDを使用することも可能となっている。 町全体でAEDマップ等の作成が課題である。さらに教職員にあっては、救命救急講習の受講などを行っており、緊急時に対応できる体制が構築されており、継続して取り組む。
	4. 教育用コンピューター整備事業	各教科及び総合的な学習の時間において、コンピューター・インターネット等の積極的な活用の推進を目的として、小中学校に順次整備しているが、本年度は美幌中学校に20台を新規購入し整備する。 (予算額5,798千円)	本事業は美幌町総合計画に掲げた事業であり、計画的なコンピューターの更新を行っている。 本年度は、平成14年度に導入したコンピューターの更新を行った。また、平成19年度に導入したコンピューター21台についてもバージョンアップを行った。 契約金額5,796千円	情報技術の進展により、最低でも5年に一度の更新が必要であり、小学校、中学校合わせた更新は、財政的な負担が大きい。

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
2 小 中 学 校 の 教 育 環 境 の 充 実	5. 教育相談及び不登校問題相談事業	<p>教育相談事業及び不登校問題相談事業として次の事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談員2名による教育相談活動 ・学校、地域及び青少年関係機関との連絡調整 ・サテライト事業（学習・スポーツ活動・農園作業） ・不登校児童生徒の登校意欲を高めるための家庭訪問（町内巡視活動を兼ねる） <p>（予算額：6,112千円）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談は、64件の実績であり、来室が27件、電話が29件、学校訪問4件、家庭訪問4件であった。 相談内容は、不登校36件、いじめ0件、進路、学習9件、家庭2件、その他17件など多岐にわたっている。 ・不登校問題では、サテライト開催193日、家庭訪問171回、電話相談延べ324回、学校訪問74回であった。 ・その他巡視活動として41回の活動を行った。 ・不登校の実態は、小学校で7名、中学校で12名の合計19名であった。これらの指導により、登校できるようになった者は9名、継続指導は10名であった。 	<p>継続して教育相談、サテライト事業（相談室において軽スポーツ、英会話、教科学習など）、学校訪問などを行っているが、学校、相談室の対応だけでは解決しない場合もあり、町の児童保護担当、民生児童委員、児童相談所、警察等との協力関係を更に深める必要がある。</p>
	6. 小中学校保健事業	<p>小中学校の児童生徒及び教職員の健康診断等の学校保健事業を行う。（予算額：8,062千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医、学校歯科医、学校薬剤師による学校保健管理 ・児童生徒に対する定期健康診断（結核対策含む） ・就学時健康診断 ・教職員に対する定期健康診断 ・日本スポーツ振興センター負担金（災害共済給付制度） 	<p>心臓検診は、小学校1年生と中学校1年生が対象で、351名の実績であり、内精密検査対象者は12名であったが、精密検査の結果、異常ありとされた者1名（未受診）、異常なし7名、経過観察4名であった。</p> <p>ぎょう虫検査は、小学校1～3年生が対象で537名の実績であり、受診者全員が陰性であった。</p> <p>尿検査は、児童生徒の全員が対象で、1,726名の実績であり、陽性者は163名で内訳は蛋白が77名、糖3名、潜血が92名であった。（9名重複）</p> <p>結核検診は、1,634名の実績であり、精密検査対象者は1名であった。</p> <p>眼科検診は、小学1年生と4年生317名に実施し、異常なしは266名、眼位異常・視力低下などの症状がある者は51名であった。</p> <p>各検査の事後措置として、各学校において保護者に指導を行うとともに、専門医の受診を促した。</p> <p>教職員の健康診断は、公立学校共済組合の指定を受けた20名は人間ドック、脳ドック、婦人ガン、大腸ガン等を行い、その他の教職員102名は町実施の人間ドックを行った。</p> <p>検査結果については、学校長から再診等の指導を行っている。</p>	<p>児童・生徒は学校保健安全法による検診を行っており、特に課題は見当たらない。</p> <p>教職員にあっては公立学校共済組合の人間ドック対象者は限られているため、学校保健の観点、福利厚生観点から経費負担について、財政的措置を望む。</p>
	7. 小学校プール改修工事	<p>小学校における児童プールの老朽化により、鉄骨部分からの塗膜片の落下が見受けられたが、上屋鉄骨部分、水槽の塗装改修工事を行うことにより、大幅な授業環境の整備が図られる。</p>	<p>本事業は、上屋鉄骨部分の塗装改修については、地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用することにより整備されたが、水槽については未整備である。</p>	<p>プール設備については、塩素を使用しているため、設備の腐食等については避けられないところがある。シーズン終了時には入念な清掃が必要である。</p> <p>また、今後についてはプール水槽部分についても同様に塗装改修工事が必要で、塩素注入機器の更新が必要である。</p>

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
3 小中学校の教育内容の充実	1. 外部講師学習行事負担金	特に、児童生徒の能力差が生じる体育科（水泳・スケート・スキー）を中心に外部講師を依頼し、グループ別によるきめ細かな指導を実施する。 （予算額：737千円）	平成14年度から実施されており、水泳では36時数、児童数延べ2,070名、講師延べ82名の実績。 スキーでは49時数、児童・生徒数延べ3,416名、講師延べ130名の実績。 スケートでは40時数、児童数延べ2,245名、講師数延べ60名の実績となった。	外部講師は、教職員の技術不足を補うもので、今後とも継続して取り組んでいきたい。 本事業は児童生徒、保護者、学校から大変好評を得ているが、年々、指導者の確保が難しくなっており、学校要望に十分応えることが困難な状況にある。 今後、学校を支援する地域指導者の確保等に取り組む必要がある。
	2. 語学指導外国青年招致事業	中学校の英語授業指導のために外国青年（AET）を配置する。 ・中学校は2週間毎に両校へ配置。 ・小学校は随時派遣する。 ・長期休業中は保育園へ派遣する。 ・氏名：平成21年8月から ダンロップ・ディビッド・ポール （予算額：574千円）	主に中学校の英語指導の他、小学校、保育園、不登校生徒のサテライト授業としての英会話、町内の各種団体への英語活動を行っている。 小学校への派遣 322時数 保育園 " 19時数 サテライト " 11時数	新学習指導要領の完全実施に伴い、小学校における外国語活動への派遣要望が高まっていることから、今後、体制強化に取り組む必要がある。
	3. 小中学校特別支援学級等への介助員の配置 （美幌小学校・東陽小学校・旭小学校・北中学校）	小学校では、美幌小学校、東陽小学校、旭小学校の特別支援学級に各1名の介助員を配置するとともに、東陽小学校、旭小学校には通常学級に各1名を配置した。 中学校では、北中学校の特別支援学級に1名の介助員を配置した。 今後とも学校生活支援を行うとともに通常学級との交流学習を促進する。 ・配置人数：6名 ・雇用形態：学期毎の雇用 （介助員賃金予算額：6,741千円）	特別支援学級の設置は、3小学校で10学級、2中学校で6学級となり、美幌小学校1名、東陽小学校2名（内1名は通級学級配置）、旭小学校2名（内1名は通常学級配置）、北中学校1名の介助員を配置し、学校生活支援を行うとともに通常学級との交流学習を促進した。 各学校の学年別在籍児童生徒の状況は次のとおりである。	教員の配置基準では、特別支援学級1学級に8名の児童に対し1名の教員を配置することになっているが、障害を持つ子の親ができれば限り通常学級で学ばせたいといった願いも理解した上で、介助員を配置した。 今後一人一人の障害の状態に合わせた教育的支援のため、必要に応じて配置していきたい。 通常学級に在籍するLD、ADHDなど発達障害の疑いのある児童への支援員の配置は、校内体制の中でチームティーチングの活用等で対応することとしているが、必要に応じて対処していきたい。
	4. 小学校吹奏楽等大会参加負担金	小学校が参加する吹奏楽大会等への参加費用を負担し、各種活動の育成と助長を図る。 （吹奏楽等大会参加負担金予算額：1,103千円）	北見地区吹奏楽コンクール（北見市） 美小・東陽小合同 50名 小学校バンドフェスティバル北見地区大会（北見市） 美小・東陽小合同 70名 オホーツク管内小学校バンドフェスティバル紋別大会 美小 29名 北見地区管打楽器個人・アンサンブルコンクール（北見市） 美小 8名 負担金額 1,103千円	負担金要綱により参加費用を負担しているが、類似する大会が多くあり、町の財政状況も厳しいことから、複数の大会への全額負担は難しくなっている。 自己負担と公費負担の見直し、全国大会の限定など要綱の見直しが必要となってきている。

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
3 小 中 学 校 の 教 育 内 容 の 充 実	5. 中体連・吹奏楽等大会参加負担金	<p>中学校が参加する中体連・吹奏楽等への参加費用を負担し、各種活動の育成と助長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中体連大会参加負担金 4,207千円 (予算額) ・吹奏楽大会参加負担金 1,325千円 (予算額) ・英語暗唱大会負担金 11千円 (予算額) 	<p><中体連等></p> <p>地区大会 14種目 全道大会 11種目 全国大会 2種目 (中体連等)</p> <p>オホーツク中学校軟式野球大会(網走市) 美中16名, 北中27名 オホーツクバレーボール大会(北見市) 美中16名, 北中14名 オホーツク中学校柔道大会(佐呂間町) 美中 1名 オホーツク中学校陸上競技大会(北見市) 美中28名, 北中12名 網走地区中学校サッカー大会(北見市) 美中26名, 北中20名 網走地区中学校ソフトボール大会(遠軽町) 北中15名 オホーツク中学校弓道大会(北見市) 美中23名 中学校通信陸上北海道オホーツク大会(網走市) 美中28名 北中12名 オホーツク中学校卓球大会(北見市) 北中21名 オホーツク中学校バスケットボール大会(網走市) 美中48名 北中31名 オホーツク中学校ソフトテニス大会(北見市) 美中40名 北中19名 北海道中学校陸上競技大会(札幌市) 美中 7名 北中 1名※全道大会 北海道中学校ソフトテニス大会(旭川市) 北中2名※全道大会 北海道中学校バスケットボール大会(千歳市) 北中15名※全道大会 全国中学生弓道大会(東京都渋谷区) 美中 5名※全国大会 北海道中学校新人陸上競技大会(網走市) 美中 7名 北中 2名※全道大会 オホーツク中体連駅伝競走大会(北見市) 美中16名, 北中 8名 北海道中学校駅伝競走大会(深川市) 美中 8名 北中 8名※全道大会 北海道中学校軟式野球選抜選手権大会(滝川市) 美中12名※全道大会 オホーツク地区中学校スキー大会アルペン(北見市) 美中 3名 北海道中学校バスケットボール新人大会(岩見沢市) 北中14名※全道大会 網走地区中学校スキー大会クロカン(遠軽町) 美中14名 北海道中学校スケート大会(釧路市) 美中 1名 北中 2名※全道大会 オホーツク中学校スピードスケート大会(斜里町) 美中 1名 北中 1名 北海道中学生インドアテニス選手権大会(札幌市) 美中 4名※全道大会 北海道中学校スキー大会ノルディック(倶知安町) 美中13名※全道大会 北海道中学校スキー大会アルペン(小樽市) 美中 2名※全道大会 全国中学校スケート大会(長野県長野市) 北中1名※全国大会 負担金額 4,864千円 (吹奏楽) 北見地区吹奏楽等大会(北見市) 美中25名、北中33名 北見地区管楽器個人・アンサンブルコンクール(北見市) 美中 2名、北中 6名 北海道管楽器個人コンクール(室蘭市) 美中 1名※全道大会 北海道管楽器アンサンブルコンクール(室蘭市) 北中 5名※全道大会 負担金額 543千円 (英語暗唱) 管内中学校英語暗唱大会(北見市) 美中 1名 負担金額 5千円</p>	<p>負担金要綱により参加費用を負担しているが、類似の大会が数多くあり、町の財政状況も厳しいことから、複数の大会への全額負担は厳しい状況にある。 自己負担と公費負担の見直し、全国大会の限定など要綱の見直しが必要となってきた。</p>

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等																																								
4 小中学校児童生徒への就学支援	1. 要保護準要保護児童生徒就学援助費	生活困窮世帯に対し、学用品・新入学用品・修学旅行費・体育実技用具費・PTA会費、生徒会費、医療費・給食費を扶助する。 歳入：要保護児童生徒就学援助費補助金(基準額の1/2補助) 特別支援教育就学奨励費補助金(基準額の1/2補助) 予算額 (単位：千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>要保護</th> <th>準要保</th> <th>計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>16名</td> <td>146名</td> <td>162名</td> <td>10,688</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>6名</td> <td>84名</td> <td>90名</td> <td>9,434</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>22名</td> <td>230名</td> <td>252名</td> <td>20,122</td> </tr> </tbody> </table>		要保護	準要保	計	合計	小学校	16名	146名	162名	10,688	中学校	6名	84名	90名	9,434	計	22名	230名	252名	20,122	決算額 (単位：千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>要保護</th> <th>準要保</th> <th>計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>13名</td> <td>144名</td> <td>157名</td> <td>10,412</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>10名</td> <td>83名</td> <td>93名</td> <td>9,224</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23名</td> <td>227名</td> <td>250名</td> <td>19,636</td> </tr> </tbody> </table>		要保護	準要保	計	合計	小学校	13名	144名	157名	10,412	中学校	10名	83名	93名	9,224	計	23名	227名	250名	19,636	美幌町における全児童・生徒数は年々減少傾向にあるが、受給者率は増加傾向にあり、平成13年度の全体に占める割合は5.39%であったが、平成23年度は15.25%である。給付額では平成13年度8,928千円であったものが平成23年度は19,636千円となっており、将来的には基準額の見直し検討も必要な状況である。
		要保護	準要保	計	合計																																							
小学校	16名	146名	162名	10,688																																								
中学校	6名	84名	90名	9,434																																								
計	22名	230名	252名	20,122																																								
	要保護	準要保	計	合計																																								
小学校	13名	144名	157名	10,412																																								
中学校	10名	83名	93名	9,224																																								
計	23名	227名	250名	19,636																																								
	2. 統合地区等通学費補助金	小中学校の統合地区からスクールバス区域以外の民間路線バスを利用している児童生徒の交通費を全額補助する。(定期券を交付する。) 遠距離通学者の通学経費の一部を助成し保護者の負担軽減を図る。(負担基準：小学生4km以上1万円 中学生6km以上1万2千円) 予算額 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統合地区通学費</td> <td>35名 2,597千円</td> <td>29名 5,527千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>遠距離通学費</td> <td>5名 40千円</td> <td>1名 6千円</td> <td>8,170千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>8,170千円</td> </tr> </tbody> </table>		小学生	中学生	合計	統合地区通学費	35名 2,597千円	29名 5,527千円		遠距離通学費	5名 40千円	1名 6千円	8,170千円	合計			8,170千円	決算額 <table border="1"> <thead> <tr> <th>統合地区通学費</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>35名 2,597千円</td> <td>29名 5,527千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>遠距離通学費</td> <td>5名 40千円</td> <td>1名 6千円</td> <td>8,170千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>8,170千円</td> </tr> </tbody> </table>	統合地区通学費	小学生	中学生	合計		35名 2,597千円	29名 5,527千円		遠距離通学費	5名 40千円	1名 6千円	8,170千円	合計			8,170千円	複式校解消にかかる基本方針に則り、小・中学校の統合地区からスクールバス区域以外の民間バス路線を利用している児童・生徒の交通費の全額補助を継続していく。								
	小学生	中学生	合計																																									
統合地区通学費	35名 2,597千円	29名 5,527千円																																										
遠距離通学費	5名 40千円	1名 6千円	8,170千円																																									
合計			8,170千円																																									
統合地区通学費	小学生	中学生	合計																																									
	35名 2,597千円	29名 5,527千円																																										
遠距離通学費	5名 40千円	1名 6千円	8,170千円																																									
合計			8,170千円																																									
5 高等学校教育の充実	1. 美幌町高等学校支援事業	本町の未来を担う人材育成及び、高校教育の充実した教育環境を確保するため、美幌高等学校の整備について道教委へ陳情・要望活動を行う。	要望活動については、高等学校と協議の上、随時行っている。	今後とも、道教委への要望、協議をして参りたい。																																								
6 奨学金制度の充実	1. 奨学金基金の運用について	本町の平成23年度末奨学金基金の残高は、48,950千円であり、その内現金は34,797千円。貸付金額は14,153千円で件数は35件となっている。	この奨学金は他の奨学金と重複出来ない制度であり、日本学生支援機構などの奨学金を受けることができない場合の補完的な奨学金の役割を果たしている。 本年度は、奨学金貸与を希望する方に利用しやすく、無理のない返済とするために奨学金制度の改正を行った。(平成23年4月1日 施行) ・貸与金額:高校 9,000円/月、大学 25,000円/月 ・返済方法:貸与終了した翌月の6ヶ月後から10年以内	滞納者対策として、戸別訪問、督促状発布などで督促を行っているが、平成23年度末の未収金額は1,907千円、10件となっている。 引き続き本人はもとより、保証人に請求し、粘り強く督促を行う。																																								

(4) 学校給食グループ

平成23年度学校給食グループ総括評価

1. はじめに

学校給食グループの事務事業を大別すると、「学校給食センター運営」と「スクールバス運行」に分けられる。

このうち、学校給食センターは児童生徒の健全な発達等を目的に設置され、学校給食法第2条に基づく目標達成のため、毎年、「美幌町学校給食基本計画」を定め、安全で安心かつ栄養バランスのとれた給食提供に努めているところである。

近年、食に関する知識の欠如、朝食の欠食や偏った摂取などの問題を抱え、学校給食を通じた児童生徒へ食に関する正しい知識や望ましい食習慣への指導強化が求められている。

このため、文部科学省が定める学校給食摂取基準に沿い必要なエネルギーや栄養素を満たすよう留意しながら多様な調理法を組み合わせた献立作成に務めているほか、美幌産農畜産物や加工品を可能な限り使用するなど地産地消の推進に併せ学校訪問指導を通じ地域農畜産業への理解を深める事業展開を推進しているところである。

次に、スクールバス運行事業については、統合地区小中学校の区域において民間バスや町営バスの運行していない区域を対象に児童生徒の登下校用として運行している。

現在、大型バス2台、中型バス1台、コミューターバス1台の合計4台を所有し、大型及び中型バスの3台については民間委託により運行しているほか、少人数の登下校時においてはハイヤーを代替として活用するなど、経費削減と効率的な運行に努めている。

平成23年度学校給食運営計画

区 分	内 容
学校給食の提供	小中学校全校を対象とし月曜日から金曜日までの週5回とする。
栄養摂取基準	小学校低学年 560kcal 小学校中学年 660kcal 小学校高学年 770kcal 中 学 生 850kcal
学校給食の内容	主食（米飯・麺類・パン）と副食（おかず・牛乳）を基本とし、1週間のうち米飯3回、麺類1回、パン1回を基準とする。
学 校 給 食 費	栄養の摂取と献立内容の保持改善を図るため、原材料購入経費として1食あたり単価を小学生237円、中学生282円とする。
保 護 者 等 連 携	学校給食の意義や給食指導への理解を深め学校及び保護者との連携を図るため「献立表」や「給食だより」を発行する。
食 育 推 進 指 導	栄養士等による学校訪問を行い、給食摂取状況の把握や栄養指導支援補佐を通じた食育指導を推進する。

2. 具体的取組の概括的評価及び課題と改善の方策

(1) 学校給食センター運営事業

① 安全・安心で栄養バランスのとれた学校給食の提供

平成20年4月から各種食材の高騰に伴い、児童生徒の1人1回あたり必要とされる摂取基準の確保を図るため、平成21年度から1食あたりの給食費改正を行い、小学生237円（改正前210円）、中学生282円（改正前253円）としている。

給食提供にあたっては、毎月、栄養士と調理員等による献立会議を開催し、安全で安心かつ栄養バランスの取れた給食となるよう取り組んでいる。

また、地産地消の取り組みについては、生産者や生産組織から直接購入（米・メロン・ニンニク・大根・キャベツ・切りゴボウ・グリーンアスパラ等）や学校訪問による指導、地場食材を中心とした給食日を設けるなど、学校給食を通じた美幌農畜産業への理解を深めるきっかけづくりに心がけたところである。

なお、青果類の地場産使用割合は28品目中19品目で67.8%（前年度75.0%）で、野菜類の重量では50.3%（前年度45.3%）となっている。

今後も、地場産農畜産物や加工食品の優先使用を推進して行くこととしている。

食育指導については、毎年、小学新1年生を対象として5月に、全小中学校では2学期に実施しているほか、毎月発行の「献立表」や年2回発行する「給食だより」に児童生徒及び保護者に対し家庭で共に考え知る内容の掲載に留意している。

また、保護者の試食会（34回）や試食会でのアンケート等による意見要望の聴取を行い、献立内容の充実改善を努めているところである。

今後も、学校給食の目的である児童生徒の健全な発達に資する内容充実に努めていくとともに、厳しい町財政を踏まえ効率的運営による経費削減の推進を図る。

② 施設維持管理事業

現給食センターは、ドライシステムにより平成9年4月から使用を開始しているが、開設後15年が経過し、経年劣化による各種調理機器等の故障が多くなってきている。

このため、委託業者による保守管理点検や職員による日常点検回数を増やすことにより、異常箇所の早期発見、修繕を行うことにより機器類の延命対策を実施するとともに、年度別修繕計画を策定し適切な維持管理に努めているところである。

また、耐用年数を過ぎた機器類については、計画的な更新を行い、平成23年度においてスチームコンベクションオーブンの更新を行ったところである。

(2) スクールバス運行事業

児童生徒を安全に送迎することを最優先とした運行を行うため、道路事情も考慮しながら住宅側（走行方向左側）で児童生徒を乗降させることを原則としているほか、道路交通法改正に伴う「シートベルト着装」の指導等を行い安全性の確保に努めているところである。

また、平成20年6月に設立された「美幌町地域公共交通活性化協議会」において、郊外地区における町有バスの一元管理による効率的な運行と空白地区の解消を図るため、これまで実証運行等を実施し検討を行ってきた。その結果、平成24年10月から一般町民も乗車する混乗スクールバスとして本格運行するとの方針が打ち出され、今後、関係部署と本格運行に向けての協議を行うこととなる。

3. おわりに

近年、家庭における食文化の多様化と変化に伴い、児童生徒の嗜好と望ましい食生活との間に隔たりがでてきている。

学校給食の使命として、日本の食文化を理解し、後生に伝えていくことや豊かな味覚の形成、生活習慣病の防止等の観点から、家庭における日常の食生活の指標となる一役を担っていることから、給食や食への理解を深めるよう更なる献立の工夫とともに献立表や給食だより等の内容充実に努めていくこととする。

また、近年、食の安全・安心が脅かされて状況から、学校給食の安全・安心を最重要課題として調理施設の衛生管理、産地等確認と公表、食品検査の実施により安全性の確保徹底に努める。

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
すくすく育むものからだ	学校給食運営事業	調理機器等施設維持管理 平成9年4月開設後、経年劣化により各種調理機器等の故障が多くなってきていることから、日常の点検整備に努め機器の使用年限を高めるとともに、耐用年数を過ぎた機器の計画的な更新を図る。	ボイラー及び廃水処理施設等保守点検業務委託、グランドケトル攪拌機交換、自動炊飯器食缶盛付機テフロン加工、調理員専用便所修繕、各種ボイラー等修繕を実施し、施設の適切な維持管理を図った。	経年劣化により調理機器や各種ボイラー等の能力低下による故障が頻繁に発生してきている状況にあり、計画的な交換修繕と更新を進める必要がある。 このため、日頃から各種機器の点検に努め、修繕及び更新計画（投資的経費・総合計画実施計画）の掲載により更新と修繕を図っていく。
		学校給食の提供 学校給食の目標（学校給食法第2条）に基づき、心身の健全な発達を促すため、安全で楽しい給食の提供を図る。	主食(米飯・パン・麺類)と牛乳、副食を基本とし、1週間のうち米飯3回、パン1回、麺類1回を原則として、年間351,767食(1人188~200食)の提供を行った。 提供に当たっては、栄養面や安全性に配慮しながらバラエティに富んだメニューによる提供に心がけた。 また、食材や加工食品の安全性の確認を行うため、5品目6回の食品検査を実施した。	学校給食栄養摂取基準に沿って提供を行っているが、児童生徒の嗜好の変化を踏まえ、残食を少なくする献立の工夫が必要となっている。 また、食の安全に関わる事故が発生しないよう、食品検査の実施や食材や加工食品の安全性の確認及び衛生管理の徹底をより一層図る必要がある。
		地産地消の促進 安全で安心な食材による顔の見える給食提供のため、美幌産農畜産物について生産者等からの直接購入を促進する。	地場農畜産物品目使用割合は、生産者及び生産組織からの直接購入が加工品、調味料、菓子類を除いた農畜産物40品目中22品目で55.0%、重量割合では、50.3%の使用割合となっている。 ○道産食材購入率 北海道食育推進計画(第2次)：平成25年度目標75% 平成23年度実績：農林産物:73.8% 精米:100% 北海道学校給食会仕様パン及びうどん(道内産小麦粉):100% 豚もも肉:100%	地場農畜産物の優先使用を行っているが、天候不順等により不安定な供給状態が続いている。 このため、一生産農家では数量確保に限られることから、安定量確保のため生産法人等組織との連携が必要となっている。
		学校給食指導(食育)の推進 生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の保持増進等が図れ美幌農畜産業を学べるよう、発達段階に応じ各小中学校訪問や授業等指導の支援を促進する。	5月中に全小学校の1年生を対象に、2学期においては各小中学校の1学級において、「噛むことについて」、「牛乳を飲もう」、「3グループの食べ物を食べよう」と題し栄養指導等を行うとともに、児童生徒及び教諭から給食に対する希望を聴き取り、今後の業務や献立作成の参考として役立てている。 また、毎月発行の「今月の献立」や年2回発行の「給食だより」を活用し、児童生徒及び保護者向けに食育について家族で共に考える内容となるよう心がけた。	偏った食生活による栄養過多や児童生徒の嗜好の変化により、野菜類を中心とした一部食材や牛乳の残食が多くなっている。 このため、各学校の理解を得ながら、食事について正しい理解と望ましい食習慣を養う授業等への栄養職員支援体制を図っていくことが必要である。 また、PTA等が開催する調理実習への講師等支援協力を進める。
子どもたちの安全な登下校	スクールバス運行事業	登下校の安全な送迎 統合地区における児童生徒の登下校及び校外学習、社会教育事業等参加者の送迎のため、スクールバス(4台)を運行する。 なお、少人数路線については、効率及び経費削減を図るためハイヤーによる代替運行を併用する。	住宅側での乗降による児童生徒の安全面を考慮しながら運行を行った。また、下校路線の一部について直営により運行することにより運行委託経費の削減を図るよう務めた。 「美幌町地域公共交通活性化協議会」に参画し、児童生徒の登下校における安全な送迎確保一元化に伴う体制整備などについて検討協議を行った。	大型及び中型の3台については、車両維持管理を含めた委託として、スクールバス運行経費の削減を図っているが、平成24年10月からの混乗スクールバス本格運行に向けて、関係部署と検討協議を行っていくことが必要である。

(5) 平成23年度社会教育事業の「第6次美幌町社会教育中期計画」に基づく総括評価

1. はじめに

社会教育事業は、町民一人一人がその生涯にわたって学習に参加し、その成果が適切に生かすことができることを目的に実施されています。

その事業推進にあたっては、社会教育委員をはじめ社会教育関係委員により策定された「第6次美幌町社会教育中期計画」（平成23～27年度）の学習機会の整備のための5つの課題に基づいて事業が行われています。

平成23年度事業の評価は、教育委員会の各グループにおいて事業個別の評価を行った後に、社会教育委員が総合的な視点で評価を行っています。

社会教育グループ、図書館グループ、博物館グループ、スポーツ振興グループが実施する事業に対する社会教育委員による評価

(5段階評価)

課 題	課題解決の視点（みんなで見つめるポイント）	評価	反 省 ・ 評 価
すくすく育む 子どもの学び	<ul style="list-style-type: none"> ① お互いが快適に生活できるように、挨拶を徹底し、モラル向上のきっかけをつくること ② 氾濫する情報の中から、必要な情報を選択する力を養うこと ③ 家庭・学校・地域社会が共通理解のもと協力しながら体験学習を進め、子どもの自立心を養い、感性を豊かにすること ④ 人として生きるために必要な知識や経験したことを、子どもに伝える機会をつくること 	3.64	<ul style="list-style-type: none"> ① 幼少時から挨拶や礼儀を身につけるため、子どもが集まるあらゆる機会に指導者から意識的に挨拶やマナーの指導が行われている。 ② 子ども達が体験活動を通して正しい知識を身につけるとともに、情報通信技術の進化に対応した正しい利用法の学習を必要としている。 ③ 博物館では、小学校・高校との連携事業が実施され効果を上げており、各施設でも更なる充実が期待される。 ④ 子どもが職業に触れる体験事業や、自然の中でのキャンプ事業により「生きる力」が養われている。参加者の更なる拡大が必要である。
わくわく広げる ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 様々な活動をとおして、ボランティア活動の大切さを伝えること ② ボランティアにおける相互の交流機会をつくり、人材の育成を図ること ③ 異なる年齢・世代の交流機会を通して、思いやりの心を育むこと ④ やりがいや達成感の得られる活動機会を広げ、指導者やリーダーとしての活動の場を提供すること ⑤ 学校・地域社会との連携を図り、ボランティア活動を広げていくこと 	3.30	<ul style="list-style-type: none"> ① 中・高校生のボランティア活動は実施されている。小学生対象のボランティア活動にも目を向ける必要がある。 ② 文化・スポーツの活動者拡大のための指導者育成が進んでいないことから、教えあえる機会をつくるなかから人材の育成が必要である。 ③ 各事業において参加者層の幅がないため世代間交流につながっていない。また、「指導する人、される人」の関係に終わっている。 ④ 事業のマンネリ化を防ぐため、常に新しい目標を定めるとともに活動の成果が生かされるような場の拡大が必要である。 ⑤ 社会教育の面での小学生からのボランティアのきっかけづくりが不足している。保護者を巻き込んだ活動も必要である。
にこにこ深める コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ① 笑顔であいさつし、つながりの持てる機会をつくること ② 家庭でのコミュニケーションを深めること ③ 団体・サークル活動の理解を深め、活性化を図ること ④ 青年層の社会参加を促進すること ⑤ 地域での連帯感を深めること 	3.40	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会教育事業ばかりでなく、家庭でのあいさつやモラルの向上のための教育が期待される。 ② 家庭でのコミュニケーションにつながる親子参加の事業が必要。 ③ サークル参加者の拡大に向け町広報紙での紹介を実施しているが、自らのPR活動も必要である。 ④ 各種活動に青年の参加が少ないなか、青年組織「B-live」が設立され今後の活動が期待される。 ⑤ 文化・スポーツを通じ地域の連帯感が更に深まることを期待する。

課 題	課題解決の視点（みんなで見つめるポイント）	評価	反 省 ・ 評 価
いきいき支え合う 高齢社会	① 関係機関・団体との連携により高齢者の実態を把握し、時代に応じた事業の充実を図ること ② 高齢者の社会参加と継続活動を奨励すること ③ 高齢者が知識や経験を活かし、活躍できる場をつくること ④ 高齢者が子どもや親に伝統や生活文化を伝達できる機会をつくること	3.49	① 一人ぐらし高齢者の学習活動の実態把握と、地域老人クラブと連携した学習の場の提供の検討が必要である。 ② 明和大学入学者が減少しているなか、元気な高齢者は多くいる。明和大学などの事業内容の外部への発信を更に行うことが必要である。 ③ サークル活動や明和大学クラブ活動の成果を地域につなぐ、「知の循環型社会」を意識した事業が必要である。 ④ 異世代（大人、子ども）と一緒に参加する事業はおこなわれているが、保護者が加わる事業も必要である。
のびのび高める 豊かな学習	① 学びの成果を発表できる場を充実し、学習者同士が教えあう機会をつくること ② 学んだ知識や技術を次代へ引き渡すために、リーダーを発掘・養成し交流を図ること ③ 学習のユニバーサルデザイン化を図り、全ての人が参加しやすい学習機会をつくること ④ 時代やその地域にあった主体的な学習を支援すること	3.20	① 学習成果の発表や教えあうことは、各種大会や文化祭などをつうじ行われているが、個別のサークルでは不十分と感じる。 ② 各サークル・団体ともに同世代間が多く、次世代へのつながりまでにはなっていないことから新会員や次のリーダー養成が必要。 ③ 学習のきっかけとして、誰でもが興味を持っていること、参加が可能であること、などに配慮した事業設定が必要である。 ④ 団体・サークルともに、自主運営で事業が行われている。更に若い世代につながる学習の工夫が必要である。

(6) 社会教育グループ

平成23年度社会教育グループ総括評価

1. はじめに

生涯学習とは、人々が生活の向上や自己実現をめざして、生涯のいろいろな時期に、自発的意志に基づき、自己に適した手段や方法で、生涯にわたって行う学習活動を言います。その過程において、知る喜び、語り合う喜び、学び合う喜び、実践する喜びなど、学ぶことに生きがいや喜びを感じ、活動自体に楽しみを見いだしながら、活動により得た知識や技術を家庭・学校・地域社会に生かすこと、活動の輪を広げることを目的にしています。評価にあたっては参加人数の多寡だけでなく、事業目的に添った効果が得られているかが重要な視点となっています。

青少年健全育成事業は、「地域の子どもは地域で育てる」の下、関係機関・団体の連携と協力により実施し、その活動の輪は他の団体や地域にも広がってきています。

2. 具体的な取組の概括的評価及び改善の方策

社会教育事業関係

◎乳幼児に対する事業

- ・ 乳幼児に関する事業は、子育て支援センター等の関係機関等と連携を図り進めています。乳幼児の母親を対象とした「フレッシュママセミナー」は、定員を超える参加があり、子育て中の母親のニーズが高まっているといえます。兄弟姉妹を伴っての参加が多いことから託児面での充実を図りながら進めています。「親子ですくすく教室」は、2～3歳までの幼児と母親を対象としていますが、参加者が定数の半数にとどまっています。父親の育児参加が重要な時期であることから、そのことを意識した教室の充実が必要とされています。
- ・ 家庭教育学級は、幼稚園単位で開設され、保護者による運営委員会により主体的に運営されています。小学校入学前の保護者の学習の場として効果的な学習プログラムとなるよう支援をしています。さらに、合同学習会では教育委員会指導主事を講師に小学校入学前の心構えを学習するなど新たな取り組みも行われました。

◎児童生徒に対する事業

- ・ 教育委員会では「教育資源リスト」を作成し、芸術・文化活動やスポーツ、野外活動の指導者が学校教育活動の支援を行う体制を整えています。23年度においても、学校が求める人材を紹介し授業に成果をあげており、今後も積極的な活用が期待されます。
- ・ 子供達に生活習慣や生きる力を育む体験事業は、「びほろっ子ワクワク通学合宿」等の教育委員会が主催する事業の他、社会教育活動奨励員が企画・運営する事業や「おもしろ科学の祭典inびほろ」、文化的な事業として日舞や茶道などを学ぶ「キッズカルチャークラブ」等の様々な取り組みを実施しています。
- ・ 屋外活動は定員を超える参加となっていますが、文化的な屋内活動に参加状況のばらつきが見られます。保護者に対して体験活動の必要性をPRしながら参加者の拡大を図ることが重要といえます。
- ・ 「春休みボランティアスクール」は、中高生を対象にボランティア活動を学ぶ場として社会福祉協議会と共催し開催しています。東日本大震災支援活動での高校生によるボランティア事例を学ぶことができましたが、中学生参加者が少ないなどの課題を抱えています。
- ・ 高校生「つみきサークル」は、異なる高校の生徒同士の交流は勿論のこと、活動を通じ自らの研鑽に励んでいます。特に小中学生対象事業には、お兄さん・お姉さんとして積極的に参加し事業を通じて自らの人格形成だけでなく将来のボランティア活動や青年活動の担い手として育てています。

◎町民に対する事業

- ・ マナビティーセンターは、文化・芸術活動のための拠点として54サークルが活動しています。活動者の輪を拡げ、更に会員の増加を図るため、町民対象にコーラスやフォークダンスを体験する「サークル開設講座」を3回開催し、自ら培ったノウハウにより町民還元活動を行う等開かれたサークル活動を実施しています。また、小学生を対象に日本舞踊や茶道を指導する「キッズカルチャークラブ」を6団体が開設し、子どもたちへの芸術文化の普及にも力を入れています。
- ・ 文化芸術活動者の会員の高齢化と、会員の減少が見られることから、更に講座数の増やすなど活動の充実と支援を進めます。

◎高齢者に対する事業

- ・ 明和大学は、高齢者が自ら学び活動する場として、更に生きがいの創出という面からもその期待は大きいものがあります。
- ・ 平成23年の入学者は、定員30名に対し10名で近年減少傾向にあります。今後も学生の要望を的確に捉えながら、魅力ある授業内容の検討をするとともに、学生の協力を得ながら学生募集を図ることとしています。
- ・ 明和大学「友の会」には、卒業・修了生147名が集い自主的な活動のなかで「生涯現役・生きがい」に大きな効果を上げています。

◎各種団体に対する事業

- ・ 文化連盟、PTA連合会、自治会連合会女性部会・青少年部会の各団体と連携を図りながら、共催事業の実施や支援に取り組みました。また、修養団美幌会からの依頼を受け、3泊4日の青少年キャンプの指導にもあたっています。今後も各団体の自主性を尊重しながら団体活動の充実のための支援を行います。

◎社会教育活動奨励員に関すること

- ・ 30名の社会教育活動奨励員は、社会教育事業への提案・提言とともに、体験活動、子育て支援、生活文化、ボランティア支援の部会に所属し、各部会の活動目的に添った事業の企画・運営を行っており社会教育事業に活力を与えるリーダーとして重要な役割を担っています。平成23年度には、3部会体制から4部会体制とし、新たに設けたボランティア支援部会では、将来のボランティアに必要な「気づき、思いやり、行動力」を養う場として、マナセン子どもクラブ「おもしろキッズ共和国」の実施に向け準備を行いました。

◎施設整備に関すること

- ・ 美幌町民会館「びほーる」建設工事は、平成23年1月に着工し、平成24年6月末竣工、8月19日のオープンに向け準備が進められて来ました。オープニング記念事業は、文化連盟を中心とした実行委員会による町民合唱団を中心とした「土の歌フェスタ」や劇団四季「こころの劇場」、NHKラジオ公開録音「民謡をたずねて」、「ほくでんファミリーコンサート」等の招へい事業によりホールオープンを祝うこととしています。

青少年育成センター関係

- ・ 青少年健全育成団体・機関の連携と協力の下、巡視、声かけ運動を実施し、子どもたちに安全安心に取り組んできました。
- ・ 小中学校の始業日、終業日の声かけは、美幌町独自の取り組みで、地域安全パトロール隊リトルウィング（青少年育成協議会、青少年育成センター、警察署補導員、民生児童委員、護老子）の活動として取り組んでいます。民生・児童委員協議会や自治会防犯部等の団体も参加され大きな輪へと広がっています。
- ・ 青少年を非行・犯罪から守るため、青少年育成協議会をはじめ青少年健全育成関係団体との連携を図り、安全・安心のまちづくりの充実を図りました。

3. おわりに

社会教育事業は、町民一人一人が主体的に各団体やサークルに参加し、その成果を地域に活かされることをめざしています。活動を通じ、各団体やサークルの主体性は培われていますが、学習者の高齢化や固定化が進んでいます。特に芸術文化の面で、この傾向が顕著となっており、若い人への芸術文化の伝承が課題となっていることから、文化団体や各サークルが共通の課題として活性化策に取り組む必要があります。

青少年教育は、次代を担う子どもたちに体験的な活動を通じて、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する力、豊かな人間性の「生きる力」を育み助長していくことを目的としています。事業への参加者を拡大するため、保護者の理解を深めることも重要な課題といえます。

明和大学は、近年入学者の減少傾向がみられることから、現状の分析と学習内容の充実を図ります。

次代を担う青年がいきいきと輝きながら活動することは町の活力の源であることから、青年層の組織化が求められています。平成23年度設立の青年組織「B-live」の育成と活動支援を図ります。

「子どもみまもり隊」の登録者が2,507人を数え、地域に根ざした取り組みが行われています。子どもたちの安全を守る地域の取り組みの継続発展が期待されます。

(7) 図書館グループ

平成23年度図書館グループ総括評価

1. はじめに

『生涯学習』の時代、第6次美幌町社会教育中期計画は【知の循環型社会】の実現を目指してスタートした。近年の科学技術の急速な発展・高度化、情報の多様化は地域住民の学習ニーズの多様化・高度化につながり、公立図書館の果たす役割も時代の要請に合わせた変革を求められている。

私たち職員は住民の身近にあって日々職能を磨き、図書館機能の不易と流行を常に考え、図書やその他資料の収集、整理、保存、提供。さらには各事業を通して住民とのコミュニケーションを深め、町民ひとりひとり、そして社会全体の教育力向上を図るべく業務推進に努めてきた。

2. 具体的取組の概括的評価及び改善の方策

初年度となる「第6次美幌町社会教育中期計画」の5項目及び「平成23年度美幌町図書館の運営」に記載している“今年度の重点”及び“具体的取り組み”に基づいて検証する。

(1) PR活動の強化

町広報（毎月）図書館通信（年2回、6月・12月発行）、図書館だより（毎月）、こどもとしょかんだより（年4回）、ホームページ（月2回更新）等で事業案内を行っている。

図書館事業の周知のため引き続き、館内掲示はもとより役場・マナセン・スポセン・博物館・郵便局など図書館だよりの設置箇所を拡大すると同時に、報道機関への記事掲載依頼を推し進め、発信する図書館として事業案内については漏れなく行ってきた。しかしながら広報等の内容が意外なほど周知されていない現実もあり、課題として残っている。

(2) 各団体との連携

団体文庫は、図書館利用サークル、幼稚園・保育所、小学校、自衛隊、病院、デイサービスセンター、理容院などを対象とし、個別の状況に応じた選書・貸出を行い利用されている。

学校・学級文庫として、あるいは社会科を中心とする教科や総合的な学習の時間の資料としての利用が多い。ただ学校・学級（担任・係活動）による差が大きくあるものの、学級文庫の貸出が飛躍的に向上した。朝読書などで需要の高い中学校の利用促進が今後の課題である。

また、町内2カ所にあるユニットは必ずしも利用が多いとは言えないが、大活字本や人気作家へのリクエストなど需要が増える傾向が見られた。地域における高齢者の憩いの場でもあり、今後も灯油の一部負担を図るなど利用促進及び存続への努力を続けたい。

図書館利用サークルは成員が高齢化傾向にあるが、それぞれの目的に則り活発な活動を行っている。

フェスティバル期間中の作品発表もサークル員の作品創りに励みとなっているようである。

また、読み聞かせボランティア「いろりの会」「美幌出前お話の会がらがらどん」の活動は受け入れ側の評価も高く要望も多様化の傾向が窺える。

(3) 事業を通しての機会づくり

①【すくすく育む子どもの学び】

乳幼児から児童を対象に、“ブックスタート・絵本とあそぼ！・おはなしのへや・おはなしと工作のひろば・手作り絵本・子ども映画会”などを実施した。平成16年度から始まったブックスタートの効果が浸透し、絵本とあそぼ！、おはなしのへやなどに乳幼児を連れた親子が着実に増え、併せて絵本の貸出も順調に伸び貸出冊数増に大きく貢献している。

また「子どもゆめ基金」の助成を受け、絵本作家あべ弘土さんを招聘。ワークショップ・講演会・原画展を開催し有意義なひとときを過ごすことができた。（平成24年度も実施予定）

反面、児童生徒の活字離れ読書離れが叫ばれる中、小・中学生の事業参加が依然鈍い。少年団活動、部活動等の要因もあるが、ゲームやインターネット、携帯などの影響、依存傾向が考えられる。学校訪問や長期休業前の「こどもとしょかんだより」などで課題図書・推

薦図書等の紹介を通し、読書の魅力を啓蒙すると同時に読書感想文コンクールへの出点数増に連動させる事が大きな課題である。

これらを「第2次美幌町子どもの読書活動推進計画」に則り学校と連携を強め地道な取組を行っていききたい。そして、明年度から実施する小学1年生対象の(仮)ブックスタート第2弾【児童書(絵本)贈呈】をきっかけに、子ども達の読書習慣確立のため保護者への啓蒙も深めたい。

②【わくわく広げるボランティア活動】

夏休み期間中、児童生徒対象の「図書館体験の日」を行い、小(8)、中(2)、短大(1)を受け入れた。

図書館の仕事を経験する中で社会参加の芽、奉仕の心を養わせる目的があり一層推進したい。

「図書館ボランティアの日」には、5～8名ほどの参加があり、除籍本シール貼りや絵本拭きなどの軽作業を中心に従事していただき、参加者の交流の場にもなっている。

「いろり」「がらがらどん」などのサークル活動では、乳幼児から小学生(市街3校完全実施)対象に読み聞かせによる読書活動啓蒙を図っていただいている。

③【にこにこ深めるコミュニケーション】

図書館フェスティバルは同実行委員会と共催で、古本市・読み聞かせ・朗読会・吟詠・映画会・サークル展示・手型などを開催した。

17回を数える古本市は寒気にたたられ、来客・売り上げ共に減少したが、同時開催のバルーンアートやフリーマーケットなど根強いファンに支えられ盛会だった。

また、各サークルによる事業も計画通り実施され成果を収めた。ただ、古本市を除く事業には来館者が少なく、夜間開館・事業の夜間実施の是非も含め、町民への啓蒙を工夫する必要性を感じた。

④【生き生き支え合う高齢社会】

昭和63年開講以来20年以上継続している「古典文学講座」は本館の看板事業とも言えるものであり、生涯学習社会にふさわしく26名の登録者を数え実施された。本講座は道民カレッジ事業の1つとして登録され、町外からの参加者も名を連ねている。統合高校初年度も事業に対する理解を得、講師派遣をいただき事業を行った。(講師 敦賀七重教諭、教材『伊勢物語』)

また、日本映画を中心として上映されている「シニアのためのお楽しみ文学館」は新たな視聴者が徐々に増えてきている。既存の所有作品と新購入作品とを組み合わせ観客増に結びつけたい。

⑤【のびのび高める豊かな学習】

図書館職員の業務の一つにレファレンスサービスがある。来館者のニーズに対する適切な対応は職員の生命線とも言うべきものである。職能向上のため、日々の打合せで高め合うと共に業務打合せ・選書会議等で意見交換を行い課題解決を図っている。

時宜に応じた「特集コーナー・原作本コーナー・追悼コーナー・受賞作家コーナー」等の開設。図書館施設(2階ギャラリー)を開放しての企画展・作品展等の充実が図られた。また、マナセン(サークル紹介)・スポセン(チャレンジデー=今年度は中止)・博物館(美幌の縄文文化移動展、絵画展ほか)など社会教育他グループ事業との連携を図った。今後、図書館協議会・歩む会・ボランティア活動の協力者と手を携え魅力ある図書館の創造に努めたい。

小中学校との共催による「読書感想文コンクール」を契機とした読書活動の充実強化。「図書館体験の日」等を通し、児童生徒が図書館に興味関心を持てるよう働きかけたい。

蔵書の増加・充実と収納は図書館共通の悩みの1つだが、「廃棄本無償譲渡」により町民に還元し喜ばれている。(新年度は1年前の新聞紙譲渡も行う)

(4) 施設・環境整備

図書館サービスを行う「場」としての機能性は時代と共に変化しており、その流れに即応したハード面における「場」造りが欠かせない。昭和54年3月現在地に図書館が建設されて33年が経過し、施設の老朽化は隠せなくなってきたが、町費を有効に活用し、下記の各種改修工事及び環境整備事業により、利用者の利便性の向上を図った。

- ①えほんひろば天井修繕 23年 6月
- ②非常誘導灯取替工事 同 6月
- ③屋根破風修繕 同 7月
- ④玄関ポーチ・階段安全マット張り 同 11月 *下駄箱設置(美幌建具組合奉仕) 同 4月

多様化する利用者ニーズに応え蔵書の増加・充実を図ってきた結果、蔵書冊数は13万冊余となり、更に「光・交付金」の多額な交付による図書(新規・更新)・視聴覚(朗読作品)の購入は、図書館の役割を果たす上で大きな力となった。

一方、収納場所の不足は、可動書架の設置、館外への一部移動等によりしのいでいるが、昨年同様抜本的解決策を見いだせない状況にある。

また、老朽化が著しく館内の照明や視聴覚設備、水回り施設等の不具合が生じている。更に、来館者の増加に伴う駐車場の不足が恒常化する中、一部駐車場提供の申し出があったものの依然解決には遠い。設備の改築や改修等々課題山積の状態である。

そして、未返却本の解消には、はがき・電話・訪問を通して利用者の自覚を促していきたい。

3. おわりに

町民に愛され利用されてこそ図書館の存在意義が保たれる。利用のバロメーターともいえるべき「来館者数」「貸出冊数」は下記の通り、昨年に比べ「来館者減」となったが、「貸出冊数」は一昨年度の記録を更新した。特筆すべきは次代を担う子どもによる学級文庫の貸出が伸びたことがその主要因である。

そうした実態をも謙虚に受け止め、職員はアンテナを高く掲げ、各事業の精選・改善を行いながら町民の学習意欲に応えることのできる図書館創りに一丸となって邁進したい。

【参考】《23年度図書館利用状況》 *開館日数 23年度(289日)、 22年度(287日)

	22年度	23年度	増(△) 減(▼)
◎来館者	74,842人	71,774人	▼3,068人
【1日平均】	(260.7人)	(248.3人)	(▼12.4人)
◎貸出	162,119冊	167,227冊	△5,108冊
【1日平均】	(564.9冊)	(578.6冊)	(△13.7冊)

【町民1人あたり貸出冊数】 22年度(23年2月末) 21,802人 7.4冊
23年度(24年2月末) 21,504人 7.7冊(△0.3冊)

【絵本貸出冊数】 22年度 34,315冊
23年度 35,429冊(△1,114冊)

【学級文庫】 22年度 6,193冊
23年度 12,382冊(△6,189冊)

(8) 博物館グループ

平成23年度博物館グループ総括評価

1. はじめに

博物館活動は、「調査研究活動」「教育普及活動」「資料整理活動」の3つの活動を基本にして、事業の取り組みを行なってきた。

事業は、「第6次美幌町社会教育中期計画」で設定された課題を解決できるよう実施しているとともに、博物館が持つ館特有な課題をも解決できるよう、事業内容や実施方法について検討している。

2. 具体的取り組みの概括的評価及び改善の方策

(1) 各調査研究活動の充実

博物館事業展開の最も基礎となる部分で、継続的に町内動植物分布・生態調査、埋蔵文化財発掘調査・資料整理等を行なっている。特に、平成20年5月に、特定外来生物ウチダザリガニが町内で発見されたことから、ウチダザリガニの防除作業を開始した。今後も継続して実施していく見込みであるが、防除の方法など、防除成果を検討しながら修正していくようにしたい。

→調査研究活動を支援・協力してくれる協力員や地元民間団体との連携を強め、協力員・団体の充実に努めたい。また、収蔵されている未整理資料について、効率的に整理・データベース化を進めていきたい。

(2) 各種講座・教室、企画展の充実、および学校教育との連携事業の実施

例年どおり、「自然講座」「歴史講座」「びほろふるさと体験隊」「夏休み子ども自然教室」「モノ作り講座」「子ども工作教室」「博物館フォーラム」「特別展」「各種企画展」等実施して、美幌町の歴史・自然・農業等に、多くの方々が関心を寄せていただけるよう工夫して実施した。また、小学校や高等学校等における総合的学習や理科における授業の支援を行ない、学校教諭と連携しながら、自然体験授業や歴史体験授業を行なうことができた。

→今後も講座・教室内容の充実を図るとともに、学校教育との連携も積極的に図っていききたい。講座・教室に関しては、特に子どもや成人を対象にした講座・教室は充実していると思われるが、高齢者を対象にした講座・教室運営が不十分な部分もあることから、高齢者の興味対象となりやすい、歴史・考古・民俗をテーマにした講座・教室の運営を、さらに工夫したい。

(3) 常設展示の改修

平成19年度から平成22年度までで、職員の手により旧農業館の1・2階部分の常設展示室を改修し、1階は講座室を持つ第2展示室としてオープン、2階は美術展示室としてオープンさせた。

平成23年度からは、博物館第1展示室の常設展示の部分改修を開始した。今後も職員の手による、部分改修を進めていく予定である。

(4) 文化財の保全・保護

各種開発行為に伴う埋蔵文化財の事前調査、高野3遺跡の発掘調査および道営畑総事業の予備調査を実施した。また町文化財の1つである「美幌小学校かしの木」については、平成22・23年度の2ヶ年事業で治療を実施した。

今後も指定文化財の点検・巡視を行なうと同時に、その保全に努めていきたい。

3. おわりに

継続的に工夫した事業展開を行ってきたと考えているが、多くの町民が博物館活動に関心を持ち、積極的に利用するという状況までには至っていない。継続して「開かれた博物館」を目指すとともに、広報の方法等更に工夫しながら、多くの町民が博物館活動に慣れ親しめるような状況を作っていきたい。

(9) スポーツ振興グループ

平成23年度スポーツ振興グループ総括評価

1. はじめに

平成23年6月にスポーツ振興法が50年ぶりに全面改正され、「スポーツ基本法」が成立しました。この「スポーツ基本法」は、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であるとの考えに立った新しい時代におけるスポーツの基本理念を提示し、国、地方公共団体、スポーツ団体をはじめとする関係者の連携と協働によって、その基本理念の実現を図ることを具体的に規定しています。

また、「第6次美幌町社会教育中期計画」では、水多き大いなるまちづくりへとして、学びのしずくを集めるために、5カ年の課題を設定し、スポーツを通じて心身の健康が促進されるよう、子どもから高齢者まであらゆる世代が生き生きと輝く成熟した生涯学習社会を築いていくこととしています。

2. 具体的取組の概括的評価及び改善と方策

(1) 生涯スポーツの振興

- ：スポーツ振興体制の充実
- ：総合型地域スポーツクラブの自立支援
- ：指導体制の充実と支援体制の強化

心身ともに健康で充実した生活を営むためには、生涯にわたりスポーツ活動に取り組むことが重要であり、誰もがいつでもどこでもスポーツに親しむことができる社会の実現が課題となっています。

このような状況の中、全計画である第5次社会教育中期計画に基づき、各種競技スポーツの普及と生涯スポーツの振興に努めてきましたが、今後は、総合型地域スポーツクラブの設立に伴い、地域住民が運動に親しめる機会を拡充し、誰もが健康で豊かな生活と地域コミュニティーが広がるよう、体育協会やスポーツクラブ等と更に連携と協働を図ることが必要です。

(2) スポーツ活動の促進

- ：スポーツ合宿の誘致と団体支援
- ：指導者の確保、育成、研修機会の充実
- ：競技スポーツ技術力の向上

各種スポーツ団体による積極的な活動により、スポーツ合宿の受け入れや指導者の養成、競技選手・団体の活躍が見られ、本町出身のスポーツ選手が全国大会や国際大会で活躍するなど、町民に感動と希望を与え、これまでの活動が競技力の向上に繋がってきています。

今後も青少年から高齢者まで、それぞれのニーズに応じた活動の促進と指導者の養成や活用を進め、地域スポーツの普及振興に努めることが必要です。

スポーツ合宿では、NECラグビー部や明治大学ラグビー部など、全国レベルのチームが合宿にきており、選手滞在による経済効果が見込まれています。また、町内の中高生の部活動や少年団に対する指導が行われ、競技スポーツの技術レベルの向上が図られており、今後とも関係団体と連携しながら、施設の整備充実や受入体制の強化を図ることが必要です。

(3) スポーツ施設の整備、活用

：既存スポーツ施設の維持補修

町内にはスポーツを楽しめる場として、屋内スポーツの中核施設であるスポーツセンターをはじめ、柏ヶ丘運動公園、網走川河畔公園、あさひ運動公園、リリー山スキー場などの施設があります。

B & G海洋センターは、平成3年に建設された施設で老朽化が進んでいたことから、B & G財団の修繕助成金並びに北海道グリーンニューディール基金事業により、上屋鉄骨、プール缶体及びペレットボイラーの改修等を実施しました。

更には、国の地域活性化交付金事業により、トレーニングセンターの内装修繕を実施するなど、既存施設の整備に努めてきました。

今後も、住民の活動実態や要望を踏まえ施設の整備を進めていきますが、将来的な施設整備構想など、計画的な施設の整備と年次的な更新整備が望まれています。

また、近年は手軽に楽しめるスポーツとして、パークゴルフが普及しており、愛好者の増加やニーズの高まりから、より快適な活動ができる施設の整備が求められています。このような状況の中、パークゴルフ場の有料化に伴い、一層のパークゴルフ場の整備充実が求められており、今後も、関係機関、団体と連携を深めながらパークゴルフ場の整備充実を図る必要があります。

3. おわりに

輝く成熟した生涯スポーツを通して、町民一人一人の健康で明るい生活のため、また、人と人とのふれあいを大切にする地域づくりのためにスポーツ振興グループの使命は大きく、広い視野からその振興を図ることが求められています。

スポーツに対する町民の多様なニーズに応えるとともに、スポーツ団体や関係機関との連携を深め、誰もが生涯スポーツに取り組める社会の実現に向け、積極的な役割を果たしてまいります。

社会教育グループ 実施事業の評価
課題1 すくすく育む子どもの学び

<社会教育グループ>

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. 子育てセミナー フレッシュママセミナー	(春期) 6/3, 10, 17, 24, 7/1 (冬期) 1/13, 20, 27, 2/3, 10	子育て支援センター しゃきっとプラザ コミュニティセンター	4ヶ月～1歳の 子どもとその親 (定員15組)	春期18組36名 延67組134名 冬期15組30名 延58組116名	今年度もスポーツ振興グループ・保健福祉グループ・子育て支援センターとの連携により充実した事業内容となった。定員を超える参加があり、本事業のニーズが高いことも伺えた。今後は、子どもの適切な成長を促すために、親としての役割と認識を深めることができるよう更なる内容の充実を図りたい。
2. 子育てセミナー 親子ですくすく教室	10/28, 11/4, 10, 15, 20	子育て支援センター しゃきっとプラザ マナビティセンター あさひ体育センター	2歳～3歳の 子どもとその親 (定員15組)	10組20名 延40組80名	父親参加のプログラムでは、実際の参加が参加者の半数にとどまり、子育てを行う上で父親参加の重要性を訴える面で課題が残った。
3. サークル開設講座 わんぱく教室 (わんぱく広場主管)	6/21, 28, 7/5	マナビティセンター 三橋ふれあい公園	乳児～就学前の親 子 (定員15組)	6組12名 延16組32名	子育て支援センター職員を招きリトミック体験を取り入れるなど、主管サークルの内容企画により充実した内容となった。なお講座終了後、4名が継続活動への意思を示され、その後の継続活動へとつながった。
4. 幼稚園家庭教育学級 2園合同スポーツ交流会 家庭教育学級合同学習会 (社会教育活動奨励員子育て支援部会主管)	4月～3月 10/18 11/17	町内 スポーツセンター しゃきっとプラザ	幼稚園児を持つ親	延800名 55名 (大谷33 藤22) 23名 (大谷14 藤9)	両幼稚園の主体的な取組によって今年度も充実した内容となった。各学級の内容について近年同内容となっていることから、新たな取り組みと父親参加の重要性をさらに訴えたい。 今年度は両幼稚園の垣根を越えて混合チームによる対戦としたが、両幼稚園の交流が図られ充実した内容であった。互いにあいさつ等声をかけあいながら取り組んでいた。 小学校入学前の心構え等について指導主事(元小学校長)よりお話をいただいたが、避けて通ることのできない課題であり、各家庭での子育て等に非常に有意義な内容であった。
5. 家庭教育セミナー	12/13	しゃきっとプラザ	保育園児を持つ親	23名	保育園に通う子どもを持つ親を対象として実施したが、周知期間の不足等から参加者があまり得られず、保育士の参加もあった。家庭教育学級合同学習会と同様、小学校入学前の心構え等を学ぶ内容としたが、次年度以降も継続した取組となるよう保育園の理解を得て進めることとしたい。
6. 子育てに関する啓発・要望把握 子育てカレンダーの配布 (社会教育活動奨励員子育て支援部会主管)	通年	新生児訪問時 (保健師を通じて配布)	第1子が生まれた親		今年度中に在庫がなくなったことから、内容を一部見直し平成24年度に作成予定。子育てを地域の方々が応援するという観点に立ち、今後も継続していきたい。
7. 子ども会活動の側面援助	随時				美幌町自治会連合会青少年部会が実施する事業等において支援を行った。地域の子ども会が衰退する中、子どもたちの体験活動の機会創出に力を注いでおり、平成23年度も3事業を実施するに至った。事業を通じて子どもたちと地域の大人のつながりづくりが行われた。
8. びほろっ子ワクワク通学合宿	9/25～9/30	地域用水広報館	小学4～6年生 (定員20名)	14名	参加者は定員に満たなかったが、社会教育活動奨励員生活・文化部会の全面的な協力のもと、基本的な生活習慣を身につけ、集団において自分の役割をもち主体的に行動する場面を作ることができました。今後さらなる子どもたちの自己決定によるプログラムを進める。
9. サークル開設講座 親子陶芸教室 (陶芸サークル七輪の会主管)	11/19	マナビティセンター	小学生と親 (定員10組)	7組15名	ペン立て・花器等の製作を行った。サークル会員の丁寧な指導により家庭でも活用できる多くの作品を作り上げることができた。親子での楽しい思い出となり、また今後の子どもたちへの興味関心をつなげる意味からも親子体験の教室は今後も継続していきたい。
10. おもしろ科学の祭典 i n びほろ (美幌科学の祭典実行委員会主催事業)	8/27	旭小学校体育館	小学生・中学生	293名	子どもたちに科学の楽しさを伝えること、地域の大人が子どもたちとの交流を図ることを目的として平成23年度も実施した。会場を旭小学校へ変更し、今まで来られなかった子どもたちにも足を運んでもらえるよう工夫がなされた。
11. コミュニティスクール	通年	主に小学校	小学校区内の子 どもと大人		小学校区毎に運営委員会が主体となり、地域と学校が一体となった子どもの育成活動が展開されている。しかし、運営委員の減少や新規加入者不足が問題となっているほか、地域の主体性を伸ばし学校側の負担の軽減を図ることが必要となっている。
12. 教育講演会	11/28	しゃきっとプラザ	P T A ・社会教育 関係委員等	48名	P T A 役員研修会・北見地区子ども会育成者研修会と兼ね、財団法人修養団より講師をお招きして開催した。事業趣旨が十分に講師に伝わらなかった面があり、事前準備段階で綿密な打合せが不足してしまった。

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
13. 子どもちょっと体験教室 (社会教育活動奨励員体験活動部会主管事業) ①郵便屋さんのお仕事を知ろう ②列車に乗って旅に出ようパート4 ③びっくり大きな文化ホールを見に行こう!	6/4	美幌郵便局	小学1～6年生 (定員30名)	29名	町内にある、日常的に触れる機会が多い職業ということで「郵便局」を取り上げ、郵便事業株式会社美幌支店の見学を行った。身近な職業でありながら初めて知ることが多く、子どもたちも郵便の仕事を一部体験しながら学ぶことができた。
	7/24	美幌駅～ 小清水原生花園	小学1～6年生 (定員30名)	30名	JRの列車を利用し、公共の乗り物におけるマナーや、乗り方そのものを学習する機会として実施した。美幌駅から小清水町原生花園までの道のりの中、列車の乗り換えや乗車マナーを社会教育活動奨励員体験活動部会部会員に指導を受けながら、体験することができた。
	10/30	文化ホール建設現場	小学1～6年生 (定員30名)	14名	美幌町の文化ホール(町民会館第1ホール)建設現場の見学を行った。大規模な建設工事を見学することで今まで体験したことのない新鮮な情報を伝えることができた。関係機関の協力のおかげでサインを残す体験もでき、文化ホールの完成へ期待を高めることができた。
14. 子どもチャレンジクッキング(社会教育活動奨励員生活・文化部会主管事業) ①どら焼きを作ろう ②桜もちを作ろう	6/18	しゃきっとプラザ	小学1～6年生 (定員20名)	17名	両事業とも多くの参加者を得ることができ、参加者ならびに保護者のニーズに合った内容であったと評価している。また、社会教育活動奨励員生活・文化部会それぞれが得意分野への指導を発揮し、おやつづくりのほか、お茶の入れ方や物の包み方等、生活に必要な技術を身につけることができた。
	2/25	しゃきっとプラザ		23名	
15. ふるさとガイド!きたミシュラン ～探せ!ふるさと五つ星☆～ (北見地区広域社会教育推進協議会主催事業)	夏7/8～7/10	津別町生活改善センター 美幌町トレーニングセンター	小学4～6年生 (定員40名)	24名 内美幌町参加者5名	北見地区1市4町(北見市、置戸町、訓子府町、津別町、美幌町)が合同で北見地区を広域的なふるさとと位置づけ、子どもたちの体験と交流の事業を実施した。夏は津別町から美幌町へ網走川をくだり、冬は美幌町の大正橋スケートリンクを会場として様々な体験を行った。夏・冬共にその土地の町民の方にもご協力いただき、ふれあいを重視したプログラムを行った。その土地の人、自然、食などを知る機会として効果的な事業を実施できた。
	冬2/18	美幌町トレーニングセンター 大正橋スケートリンク	小学4～6年生 (定員40名)	25名 内美幌町参加者5名	
16. 夏休み子ども自然体験キャンプ (修養団美幌会主催事業、教委後援)	8/4～8/7	福豊小学校	小学生・中学生 (定員50名)	12名	参加者が大幅に少なくなり、集団生活の場としては少し物足りない形とはなったが、実施場所の変更を行うことで、プログラムの充実を図り、体験活動という側面においては充実したものとなった。参加者・リーダー・運営スタッフの交流の場も多く、効果的な事業となった。参加者の獲得については主催団体と継続した協議が必要となっている。

課題2 わくわく広げるボランティア活動

<社会教育グループ>

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. ハートフル・サポートセミナー (春休みボランティアスクール)	3/24, 3/25	しゃきっとプラザ	中学生 高校生 (定員30名)	中学生 3名 高校生 7名 合計 10名	中学生・高校生を対象に、「福祉」や「ボランティア」というテーマをとおして、人との支え合いや助け合いを学び、関心や意欲を高めることを目的に実施する。(東日本大震災についての講話、高校生ボランティアの事例、レクリエーション講習)
2. 高校生リーダー「つみきサークル」の養成 (高校生リーダー養成講習会)	6/11～6/12 8/3～8/4 3/4	マナビティーセンター 福豊小学校 マナビティーセンター	高校生リーダー つみきサークル (会員21名)	10名 3名 7名	高校生(ボランティア)リーダーとして、子どもたちと接する上で必要な知識、技術を身につけることを目的として実施した。知識では、リーダーとは何かという導入部分から、より具体的な理論や心構えについて学習し、実習では野外活動の方法、自分たちの役割を学んだ。その他、海外支援や東日本大震災の復興支援についても学習で触れることができ、より多角的な視野を持つことができる研修を実施することができた。
3. YMC Aジュニアリーダー養成キャンプ派遣	8/1～6	津別町	高校生リーダー つみきサークル	0名	対象となる高校生の日程が合わず、派遣に至らなかった。より実践的な貴重な研修の機会であることから、次年度の実施に向けて取り組みを進めたい。
4. キッズカルチャークラブ	4月～3月	マナビティーセンター	小学1～6年生 (内容により定員は異なる)	延61名	5団体・1個人にご指導いただいたが、どのような立場で子どもたちに指導していただいているか、子どもたちに伝える機会がなかった点は反省である。一方で指導いただくことにより団体や個人の技術・知識が子どもたちへ還元された点は良かった。今後は新規の団体等にも呼びかけ子どもたちの体験機会の拡充を図っていきたい。
5. マナビティーセンター利用サークルの育成援助	4月～3月	マナビティーセンター		平成23年度 利用登録団体 54団体	団体・サークルの活動のみならず、自分たちの活動を広く地域に還元している団体・サークルはあるものの、全体としての広がりを見せていない。学校の授業や他団体における指導など積極的に受け入れていただけるよう、サークルへの働きかけを強めていきたい。
6. 美幌町自治会連合会女性部会の活動援助	4月～3月	マナビティーセンター他		単位自治会 女性部数 37自治会	専門委員会を中心に活発な活動がなされている他、全町女性のつどいなど町の女性のトップリーダーとして活動内容が充実している。平成24年度に発足40周年を迎えることから、今後は多くの人たちを巻き込みながら、より充実・発展した活動が展開できるように指導を行っていく。
7. 美幌町女性国内研修派遣	10/20～10/25	埼玉県嵐山町、東京都	女性団体役員等 (定員2名)	1名	平成15年度に終了してから7年ぶりに開始した事業であり、内容面は全国の女性リーダーとの交流により非常に充実したものとなった。しかし参加が1名のみとなってしまう、全町的な女性団体リーダー養成の観点から定員を満した取り組みが必要となっている。

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
8. 文化団体等の活動援助	随時	町内関係施設	文化団体等	文連加盟 19団体 マナセン登録 54サークル	各単位団体では活発な活動がなされているが、会員が固定化し高齢化している問題に対し、新規加盟団体や入会者の増につなげる取り組みができなかった。今後とも連盟役員と連携し、文化活動の活性化を図りたい。 マナビティーセンター使用料の減免により活動支援を行っているが、サークルの社会活動や他団体・サークルとの連携を広げるに至らなかった。

課題3 にこにこ深めるコミュニケーション

<社会教育グループ>

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. はたちのつどい	10/13, 27 11/10, 17, 24 12/8, 15, 22, 29 2/25	マナビティーセンター	平成23年度 新成人	11名 延87名	平成23年度の新成人が成人の集いの企画・運営をとおして、今後の社会生活の中で大切な仲間とのつながりを作ることを目的に実施した。今年度の参加者は非常に主体的な活動が多く見られ、自主的にビデオレターの撮影を行うなどの行動も見られた。参加者間のコミュニケーションも良くとられており、交流の部分においても積極的な姿を見ることができた。
2. 成人の集い	1/8	コミュニティセンター 大集会室	H3. 4. 2～ H4. 4. 1生まれ 249名 (町外者申込含)	178名	平成23年度はたちのつどいの企画・運営のもと、厳粛な雰囲気のもと実施することができた。会場では久しぶりに会った仲間同士が笑顔でコミュニケーションをとる姿が多く見られた。ただし、機器操作に不手際があり、プログラムに支障をきたす事態もあり、今後の実施にあたっては準備・確認作業を入念に行うこととしたい。
3. 女性学級 女性学級合同学習会	4月～3月 2/27	町内他 マナビティーセンター	町民一般 町民一般 (定員なし)	23名	今年度は8学級が開設したが、各学級ともに主体的な運営がなされ、充実した活動につながったが学級によって活動回数の開きが大きく、充実した活動となるよう支援をより強化していきたい。 東日本大震災を教訓に人とのつながり、地域のつながりを再認識する機会となった。日々の生活を改めて考え直すことまで内容が広がり大震災を教訓に幅広い視点から考えることができた。
4. 自治会女性部役員研修	3/24	大空町	自治会女性部役員		大空町自治会女性部連絡協議会との交流をとおし、自治会連合会女性部会が抱えている課題や悩みを共有し、課題解決のための一助とすることができた。
5. 青年団体の活動援助	4月より月1回(金曜日)	マナビティーセンター		13名	平成23年度より青年活動団体「B-live」として発足し、月一度の例会、並びに全町的な事業への協力を行った。今後へ向けて自主的な事業の展開と、青年自体のスキルアップを目的とした事業の企画・運営の継続的な支援を行っていきたい。
6. 北中学校特別教室夜間開放	5月～4月	北中学校	マナセン 利用サークル	4団体 (平成23年度)	4団体のうち、聖月流日本吟剣詩舞道会美幌支部・美幌民謡声友会がマナビティーセンターへ活動場所を変更したことに伴い、美幌吹奏楽団・美幌伽流羅の2団体のみの利用となっている。多くの団体にに利用していただけるよう支援を継続するとともに、適切な利用についてスポーツ振興グループと北中学校との連絡調整を密に取りながら進めていくこととしたい。

課題4 いきいき支え合う高齢社会

<社会教育グループ>

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. 高齢者教室「明和大学」の開設 明和大学公開講座 明和大学学校祭 3町高齢者大学交歓会	4/13～3/7 (全22日) 7/6 11/2 8/20 10/7	マナビティーセンター他 マナビティーセンター 〃 マナビティーセンター 津別町中央公民館	65歳以上の町民 明和学生 一般町民 明和学生 美幌. 大空. 津別三町	在籍数 本科1年 10名 本科2年 24名 本科3年 18名 研修科 43名 計 95名 49名 24名 74名 79名	平成18年度以降、は定員割れが続いている。 必修クラブ6クラブ(写真・園芸・手工芸・体育・歌謡・社交ダンス) 特別クラブ6クラブ(民謡・コーラス・大正琴・書道・絵手紙・パークゴルフ) クラブ活動は年間12回であり、成果を発表するには時間が足りないとの声がある。 園芸クラブ及び手工芸クラブ(スタンドグラス)の講師は23年度限りであり、これに代わるクラブ(講師)を決めなければならない。 講師が元アナウンサーのため話術が巧みで、内容も高齢者向けであった。 旭川医大派遣講座として眼科医を講師として開催した。 学生自治会の事業として定着している。 クラブは、この交歓会での発表が目標の一つであり、他町の発表鑑賞も良い刺激となっている。
2. 明和大学「友の会」の活動援助	随時	マナビティーセンター	明和大学 卒業生	会員147名	明和友の会は、年間事業計画により自主的に活動を行っていることから、日帰り旅行のバス車両の手配、会報の編集、発行について支援している。
3. 高齢者のグループ・サークル活動の援助	随時	マナビティーセンター他	高齢者		明和大学卒業生が中心となり活動しているサークルの活動を援助する。(ダンス・コーラス・華道・大正琴・茶道・写真・ボウリング・パークゴルフ)

<社会教育グループ>

課題5 のびのび高める豊かな学習

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. マナビティーセンター講座 ①イマドキ講座 ②きらり☆女性セミナー ③おもしろ科学の祭典 in びほろ指導者養成講座	2/9 12/3 7/6, 7/20	マナビティーセンター しゃきっとプラザ マナビティーセンター	町民一般 (定員なし) 町民一般 (定員なし) 町民一般 (定員なし)	16名 53名 5名	「イクメン」というテーマに、実際に現在子育て中の父親の姿が少数ではあったが見られたことは成果であった。今後父親の子育てにいての支援等について検討していくきっかけを得られた事業となった。 らんざんの会との共催事業として今年度も実施した。社会参加の重要性について理解している参加者が多かったためそれをどのように継続させるかという点について重きを置いた講話で、講師の巧みな話術も手伝って充実した内容であった。 おもしろ科学の祭典inびほろへの参加(大人)の拡大を図ることを目的として開催したが、参加者が少数であり、効果的な実施ができなかった。今後も継続的な取り組みを続け、一人でも多くの方に全町的な行事に関わりを持ってもらえるように取り進める必要がある。
2. サークル開設講座 ①楽しいコーラス教室 (合唱団アダージョ主管) ②初心者フォークダンス教室 (びほろフォークダンスサークル主管) ③ステンドグラス教室 (ステンドグラスサークル主管)	6/30, 7/7, 14, 21 9/21, 26, 10/3 3/18	マナビティーセンター マナビティーセンター マナビティーセンター	町民一般 (定員20名) 町民一般 (定員20名) 町民一般 (定員10名)	11名 延34名 7名 延11名 10名	講座の成果を施設での慰問演奏で講座参加者も交えて披露するなど目に見える形で還元できた。講座終了後6名が継続活動の意思を示された。 諸外国の踊りをとおして文化をも学ぶことができ充実していたが、欠席が多かったことが残念である。講座終了後1名が継続活動の意思を示された。 家庭で使用できる小物入れの製作を行った。サークル会員の丁寧な指導もあり、講座参加者とサークル会員の交流も大いに図られた。講座終了後名が継続活動の意思を示された。この他、ゴスペル体験教室・初心者盆太鼓教室・初心者陶芸教室の3講座については講座成立要件である5名以上の参加が得られず、事業実施に至らなかったが、次年度は申込が少数であっても開催していくこととしている。
3. プチアートギャラリー	4月～3月	マナビティーセンター	マナセン 利用サークル	12サークル	施設の文化的な雰囲気高め、プチアートギャラリーを目標に活動を行っているサークルもあり充実している。しかし、マナビティーセンター研修室の実施ができず、次年度に向けた課題となった他、利用サークル以外の団体による作品展示など更なる充実を図っていきたい。
4. 美幌町文化祭	11/1～11/3	コミュニティセンター	町民	1,680名	芸能発表部門は町民会館改修により実施しなかった。町内高齢者施設の作品出展が増加しているほか、多くの方の日常活動の発表機会となった。開催日が平日中心となってしまい、次年度からは曜日に配慮した日程設定を行う。また、町民会館「びほーる」での開催も検討する。
5. 芸術文化鑑賞事業 ①大規模鑑賞事業 ②文化連盟単位団体企画事業	12/20	第1講演 北中学校 第2講演 コミュニティセンター	中学生 一般	延1,146名	町民会館改修中により「文化講演会」として開催し、言語学者の金田一秀穂氏を招聘した。特に第1講演では、初めて中学校との連携により授業として全生徒に講演を聞いていただいたことは評価できる。2回の講演により多くの町民が「日本語」を考える機会となった。 実施希望団体がおらず実施しなかった。文化振興の観点から文化連盟加盟団体に積極的な開催呼びかけを行いたい。
6. 芸術文化活動の援助 ①ふるさとづくり事業「オチマンの親子でワクワふれあいコンサート」 ② 同 「吹奏楽技術講習会」 ③ 同 「第56回北海道吹奏楽コンクール出場」 ④ 同 「第10回いにしへの調べ」 教育委員会後援事業	5/8 7/28～29 9/4 3/4 随時	しゃきっとプラザ 各小中高等学校 札幌市 経済センター 町内	町民 吹奏楽奏者等 美幌吹奏楽団 町民 文化団体等	160名 130名 38名 130名 12団体後援	ふるさとづくり事業(文化・スポーツ振興事業)は、町民の主体的な文化活動の活性化を目的に実施している補助事業であり、また、一流の芸術文化に町民がふれる機会でもあることから、さらなる充実を図る必要がある。特に文化ホールを核とした今後の文化振興の一環として、事業主体者となる町民の新たな育成と、それをつなげる取り組みが必要である。 文化連盟加盟7団体、その他5団体からの要望で名義後援等を行った。後援にあたっては基準により町民会館使用料の減免も行っており町民会館改修に伴いより積極的な活動支援のための要領を検討した。

社会教育グループ 学習基盤の整備の評価

課題1 わかりやすい情報を伝えるために～情報提供の体制整備		反省・評価
課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画	
マナビティーセンターサロンの機能充実	マナビティーセンターサロンの機能充実	各市町村や機関の情報紙等を陳列し閲覧環境をつくっているが、来館者のほとんどがサークル活動等の部屋利用を目的としていることもあり、サロンへの出入りは少ないことから、あまり利用促進が進んでいない状況にある。インターネット端末やテレビ等の設置も現実性が薄く、PR要素も少ないことから、現状維持の中で利用促進をしていきたい。
町広報等による団体情報や活動機会の発信	町広報等による団体情報や活動機会の発信	平成22年8月より、マナビティーセンター利用サークルの紹介を広報びほろ内で行い、広報を見てサークル加入への問合せをいただくなど、一定の効果が見られた。また電話・来館による学習相談にも随時対応しており、サークルへの新規入会等につながっている。(平成23年度相談件数 4件)
「びほろっ子プレイガイド」の内容充実	びほろっ子プレイガイドの発行(月1回、年間行事予定表発行)	月1回・年間行事予定の配布につつまして滞りなく実施することができた。内容も教育委員会主催事業だけではなく、その他町内で行われる事業についても掲載し、周知を図ることができた。家庭においてもある程度広報誌として定着している様子がうかがえる。今後さらに見やすく整理を行い、子どもの事業を効果的に周知することができる広報誌づくりを行いたい。
「教育資源リスト」の活用促進	教育資源リストの配布・活用促進	小学校を中心に総合的な学習の時間や生活科等の授業、PTA活動等で活用されており、さらに活用が促進されるよう学校への周知と人材登録の充実が必要である。
文化事業の把握と全町的な情報発信	文化事業の把握と全町的な情報発信	補助事業に対しては町広報等で情報発信をしているが、その他後援事業については周知を行っていない。他市町村の文化事業も含め全町的な文化事業の情報発信は必要であり、文化振興の観点からホールを核とした情報提供の手段の検討が必要となっている。
	青少年関係事業一覧の発行	主に小学校教職員並びに教育委員会職員・関係委員向けに活発に行われている青少年教育関係事業を一覧にして配布を行った。平成23年度より内容をより簡素に見やすいものとするために、イベントカレンダー的な要素を取り入れ編集し発行した。ただし、発行による効果の確認に至っていないため、その効果を検証する必要がある。

課題2 学びの手助けを充実するために～学習支援体制の整備		反省・評価
課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画	
地域人材の把握と支援体制の整備	学習相談体制の充実 教育資源リストの配布・活用促進	学習に関する問合せは社会教育主事を中心に対応している状況だが、青少年向けの教育資源リスト以外の多様な相談内容に対応できる情報の収集・整理が行われておらず、現状体制を維持しつつ相談体制の質の向上を図ることが必要となっている。
社会教育関係委員による学習支援体制の充実	有志指導者の養成と活用 美幌町社会教育活動奨励員会議 全体会議(年2回) 各部会(年5回程度)	青少年教育事業において社会教育活動奨励員の参画が顕著であり、今後も社会教育活動奨励員の発想を活かし、さらなる事業の充実を図ることとしたい。 全体会2回、体験活動部会9回、子育て支援部会8回、生活・文化部会7回、ボランティア支援部会8回開催
	関係委員の研修機会の整備 ①市町村社会教育委員長等研修会(札幌市1名) ②北海道社会教育研究記念大会(恵庭市2名) ③網走・北見地区社会教育委員研修会(訓子府町4名) ④網走管内社会教育振興セミナー(西興部村6名)	各研修会とも多くの参加が得られたが、より多くの委員に参加してもらえよう努力したい。北海道社会教育研究大会において、美幌町の取り組みが全道に紹介され高い評価を受けた。
(仮称)文化ホール利用促進に伴う舞台機器操作等の指導体制の充実	(仮称)文化ホール利用促進に伴う舞台機器操作等の指導体制の充実	舞台機器操作を専門業者に委託することを決定することができた。今後は委託業者指導による操作員育成の手段と町内操作員のシステム化を検討する。

課題3 魅力ある学び場とするために～施設の整備		反省・評価
課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画	
陶芸窯(13kw)の更新	陶芸窯(13kw)の更新	平成24年度に陶芸窯(13kw)の熱線交換(全線)を行う予定。本来であれば更新時期は超過しているが、陶芸関係サークルの適切な利用により前回交換時から更新を行わず継続し使用ができています。関連して、平成24年度に、15kw陶芸窯の基盤が経年劣化に伴い交換を行う予定である
サークル等の参画による施設づくり	サークル等の参画による施設づくり	プチアートギャラリーでの手工芸作品展示等、施設機能が充実してきているが展示団体・サークルの拡大や備品の適切な活用等、利用者の理解を得て誰もが気軽に使用できる施設づくりを目指したい。
	活動サークル作品等展示スペースおよび学習情報コーナーの充実	作品展示のスペースについては近年1階正面玄関前の展示スペースのみとなり、2階研修室を利用した作品展示が展開できておらず、展示スペースの拡大を行っていく必要がある。学習情報コーナーについては紙媒体での情報提供となっているが、インターネット接続が可能なパソコンの導入が現状では難しいため、現状維持をしながら充実を図っていきたい。
工芸関係等の施設備品の維持管理	工芸関係等の施設備品の維持管理	マナビティーセンターのオープンから10年以上が経過し、各種備品の整備を行っているが、新規購入が現状では難しいため、利用者の理解と協力を得て、より長く、継続して備品使用ができるようにしていきたい。
(仮称)文化ホールの整備促進とホール運営	(仮称)文化ホールの整備促進とホール運営 (本体工事、施設愛称の公募、運営体制の検討等)	施設の愛称は全国から276件が応募が寄せられ、中学生も含めた審査委員会で決定を行った。本体工事・外構整備・備品整備等すべて計画どおりの進捗であるが、工事期間中に見学機会を4回つくるなど、様々な面で町民の関心を高める取り組みをすることができた。

美幌町青少年育成センター事業の評価

① 青少年の健全育成と非行防止の巡視活動と環境浄化活動

<社会教育グループ>

活動事業	活動実績	期日	場所	反省・評価
1 巡視活動				
(1) 定例巡視	○各小中学校の入学式、始業日・終業日の「声かけ運動」 ・入学式 (巡視延べ人数：89名) ・1学期終業日 (巡視延べ人数：47名) ・2学期始業日 (巡視延べ人数：43名) ・2学期終業日 (巡視延べ人数：47名) ・3学期始業日 (巡視延べ人数：35名) ○中学生と育成指導員との合同巡視(参加者15名) ・美中(生徒3名・教諭1名・高校生5名・民児委員1名) ○長期休暇中の巡視。 ・春休み巡視 (巡視延べ人数：8名) ・夏休み巡視 (巡視延べ人数：11名) ・冬休み巡視 (巡視延べ人数：7名)	4月6・7日 7月22日 8月17日 12月22・26日 1月17日 9月10日 3月28日、4月4日 7月26日、8月5・9日 12月27日、1月13日	各小中学校 美中の通学路等 町内	今後も継続した取り組みが必要である。 民生児童委員・つみきサークルの参加をいただいた。(北中は、部活動等で日程合わず。) 夏の暑さ、冬の寒さから、屋外での児童・生徒の姿は、ほとんど見られない。
(2) 合同巡視	○地域安全パトロール隊リトルウイング(育成センター、育成協議会、警察署補導員、民生児童委員、護老子)による巡視。 ・ふるさと盆踊り (巡視延べ人数：74名) ・ふるさと祭り (巡視延べ人数：334名) ・新入学期 (巡視延べ人数：75名)	8月12・13日 9月4～6日 4月8・11・13・15日	美小グラウンド 祭り会場・子ども横丁 各小学校	児童・生徒の安全安心のため、今後も取り組みは必要である。
(3) 特別巡視	○「不審者等の出没」及び「事件等発生による、リトルウイングを中心とした巡視」 ・不審者等情報配信 平成23年度発生件数：6件	4月～3月	町内	前年度に比べ(H22：10件)発生件数が減少しているが、取り組みは必要である。
(4) 随時巡視	○日常において、危険箇所等問題点があれば育成センターへ連絡をもらい改善する。	随時	町内	改善等、特になし。
2 環境浄化活動				
	○有害図書等販売の立入調査。(オホーツク総合振興局 環境生活課)	適時	町内	春休み巡視で実施(都橋)。総合振興局の立入調査なし。

② 青少年の健全育成・非行防止に関する啓発活動等

<社会教育グループ>

活動事業	活動実績	期日	場所	反省・評価
1 強調月間等啓発活動の協力				
(1) 第61回「社会を明るくする運動」 主催：同 実施委員会	○開会式、街頭パレード及び街頭啓発 (育成センター：6名参加)	6月26日	役場正面玄関前 及び大型店	関係団体等との連携及び協力。
(2) 青少年健全育成強調月間 主催：美幌町青少年育成協議会	○開会式、街頭啓発。(育成センター：7名参加) ○第9回「明るい家庭づくり」絵画コンクール表彰式 ・応募総数318点(小学生303、中学生15)、表彰作品16点(小学生8、中学生8) ○第28回美幌町「少年の主張」大会(育成センター：6名参加) ・発表者19名(小学生8名、中学生11名) 来場者114名	10月30日 11月19日	しゃきっとプラザ・大型店 美幌小学校体育館	
(3) 美幌町歳末特別警戒出動式	○出動式(街頭啓発は、天候不良のため中止)。	12月15日	町民会館	
2 健全育成のぼり旗の設置				
	○7月(7/1～7/31)社明運動、11月(11/1～11/30)強調月間に合わせ設置。	7月 11月	各学校・ 公共施設周辺	町内10ヶ所に各4本ずつを設置。
3 広報活動				
(1) 町広報誌による啓発	○各学校における長期休暇の日程等を町民に周知し、児童・生徒を見まもる呼びかけを掲載。	7月号・11月号 12月号	全戸配布	夏・冬休み、青少年健全育成強調月間を掲載した。
(2) 青少年育成協議会発行「リトルウイング」	○青少年健全育成に関わる情報の提供。	7・9・11・3月	町広報誌配布時に全戸配布	
4 「道民家庭の日」推進事業				
	○第9回「明るい家庭づくり」絵画コンクール表彰式	10月30日	しゃきっとプラザ	毎月第3日曜日は「道民家庭の日」
5 「電話聞き役ホットライン」				
	○いじめ、引きこもり等で悩んでいる児童・生徒や保護者を対象に、電話相談を実施。 平成23年度利用件数：無し	毎週木曜日 16:30～18:00	マナビティーセンター	平成23年9月8日事業終了。 延べ利用件数：2件 H20.4.24～23.9.8の3年5ヶ月開設。

③ 青少年育成指導員の資質向上を目指した研修の推進

<社会教育グループ>

活動事業	活動実績	期日	場所	反省・評価
1 各種研修会への派遣	○研修会等への育成指導員派遣。 ・平成23年度 北海道青少年育成大会（大矢根・安井指導員） ・平成23年度 青少年育成運動活性化研究協議会（深田指導員）	9月2日 10月28日	札幌市 札幌市	他地域の実態及び指導員の資質向上のため、今後も派遣していきたい。
2 指導員研修会の開催	○青少年健全育成等に関する研修会。 ・「世界一受けたい国語授業」～心地よい日本語～講師 言語学者 金田一秀穂氏（育成センター：4名参加）	12月20日	北中学校体育館	

④ 青少年育成関係機関、団体との連携

<社会教育グループ>

活動事業	活動実績	期日	場所	反省・評価
1 美幌町青少年育成協議会との連携	○全町的な青少年健全育成活動を推進するため、事業等の連携及び協力を実施。 ・美幌町青少年育成協議会総会 ・小中高PTA生活部と育成協議会合同連絡会議 ・地域安全パトロール隊リトルウイング会議 ・第9回「明るい家庭づくり」絵画コンクール審査委員会 ・「青少年健全育成強調月間」開会式・街頭啓発、第9回「明るい家庭づくり」絵画コンクール表彰式 ・第28回美幌町「少年の主張」大会	5月31日 7月5日 8月4日 9月14日 10月30日 11月19日	マナビティセンター マナビティセンター マナビティセンター マナビティセンター しゃきプラ・大型店 美幌小学校体育館	育成協議会とは、一体となり各事業・各活動を推進した。今後も青少年健全育成に対する連携及び協力を実施していきたい。
2 生徒指導連絡協議会	○青少年健全育成のための情報交換等を実施（深田会長、事務局出席） （各小中高の生徒指導教員、教育委員会、育成協議会、警察署、児童相談所、主任児童委員、保護司会）	5/17、7/6、10/6、12/2、2/20	美幌小学校	

⑤ 青少年育成指導員会議

<社会教育グループ>

活動事業	活動実績	期日	場所	反省・評価
1 定例会	○定期的に会議を開催し、育成センター及び育成指導員の活動について協議した。	5/16、7/11、12/5、3/15	マナビティセンター	4回開催し、活動等の協議・意見交換を実施した。

図書館グループ 実施事業の評価
課題1 すくすく育む子どもの学び

<図書館グループ>

事業名	期日	場所	対象 募集人数	参加人数	反省・評価
1. おはなしと工作のひろば	4/23, 7/23, 11/26 2月25日	図書館	児童及び父母	4回 延33名	季節や行事にあわせた絵本を紹介する良い機会となっている。当初の目的である小学生の参加が少ない為今年度は写真入ポスターを作成し各小学校に掲示を依頼する等PRの強化に努めた。また今年度は事業のはじめ、終わりの挨拶等を意識して事業を進めた。
2. 学校文庫	4月～3月	福豊小学校	児童	120冊 ×12カ月	学校との連携のもとに計画的に配本を行っている。
3. 学級文庫	随時	美幌小学校 東陽小学校 旭小学校	児童	27学級 12,382冊	学級単位で団体文庫を設置している。昨年度の5,907冊から今年度は倍近く利用が伸びており、学校で児童が身近に本に触れる機会作りの手助けとなっている。
4. おはなし文庫	4月～12月 2月～3月	季節保育所	幼児	55冊×7ヶ所×9ヶ月 55冊×3ヶ所×1ヶ月(冬期)	定期的な配本での利用が定着している。
5. 幼稚園文庫	4月～3月	町内幼稚園	幼児	藤 60冊 大谷 55冊 毎月配本	定期的な配本での利用が定着している。
6. おはなしのへや	毎月第1, 第3, 第5 木曜日(30分)	図書館	幼児・児童 (3歳～10歳位) 保護者	24回 延199名	親子で参加し、共に絵本を楽しむ場となっている。今後さらに内容を充実し、積極的にPRしながら利用者増に向けて努力していきたい。
7. お話わくわく! たまたまぼこ	10/1	図書館	幼児・児童 保護者	1回 70名	図書館フェスティバルの恒例行事として実施されている。小学生からシニア世代まで多くの読み手が参加しており、様々な世代の交流の場ともなっている。
8. 保育園読み聞かせ巡回	月1回	町内保育園	保育園児	2カ所 計22名	ボランティアの協力を得て保育園において読み聞かせの巡回を行っている。読み手はシニア世代が中心であり異なる世代の交流の機会ともなっている。
9. 絵本とあそび!	毎月第2, 第4木曜日	図書館	乳幼児 (0～2歳位) 保護者	24回 延352名	乳幼児期から親子で絵本を楽しむ場であると共に絵本や手あそびの紹介等により、家庭での親子のふれあいのヒントを提供する場ともなっている。ブックスタート時の説明や母親同士の口コミなどにより新しい参加者も多い。
10. 手づくり絵本講習会	7/30, 31	図書館	児童及び一般	2日 16名	講師を迎え絵画の基本を学んだ上で絵本を作成した。児童の参加が少ないためPRの強化が必要である。
11. 出前お話会の開催					要請に応じ出前お話会を開催すべく準備しているが今年度は開催がない為利用拡大に向けてPRが必要である。
12. ブックスタート事業	4/20, 5/18, 6/15, 7/13 8/3, 9/21, 11/2, 12/14 2/15, 3/14	しゃきっとプラザ	10ヶ月児 保護者	10回 171名	10か月児健康診断の場で親子に絵本を手渡すと共に声かけ、読み聞かせの大切さについて伝えている。子どもへの絵本の動機付けと共に親に対する図書館利用へのPRにもなっている。
13. 子ども映画会	4/9, 5/14, 6/11, 7/9 8/13, 9/10, 10/8, 11/2 12/10, 1/14, 3/10	図書館	幼児・児童 保護者	11回 延256名	学童保育の児童等定期的な参加がある。名作アニメ等を通して子どもの感性を豊かにする場となっている。
14. 壁面及び柱面装飾	随時	図書館内	幼児・児童	4回	柱面に来館者が折り紙を貼る等、幼児・児童をはじめとした来館者が図書館に親しみ楽しく参加できる場を設けた。
15. 読書感想文コンクール	(表彰式) 11/9	図書館	小・中学生		児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集し、表彰、文集発行を行った。
16. 児童生徒作品展	9/1～14	ギャラリー	小学生		展示機能を活用し、学校の協力を得て美幌小学校児童の作品発表の場を提供した。
17. 絵本展示「絵本で世界一周!」	4/23～5/12	ギャラリー	幼児～一般		こどもの読書週間にあわせ、図書館所蔵の世界の昔話絵本等を展示した。

課題2 わくわく広げるボランティア活動

<図書館グループ>

事業名	期日	場所	対象 募集人数	参加人数	反省・評価
1. 図書館サークル活動の支援	随時		読み聞かせ ボランティア		サークルに対する読み聞かせ講習の実施、打合せ時等に絵本や読み聞かせ関連の情報提供を行った。
2. ボランティア研修講座	3月18日	視聴覚室	読み聞かせ ボランティア 幼児・児童 一般町民	1回 42名	「おはなしわくわく講座」として講師を招集し開催。今年度は公演としても楽しめる絵本ライブを開催し、ボランティアの学びの場の提供と共に親子で参加できる事業として多くの参加があった。また、事業の前段に町内ボランティアによる読み聞かせもあわせて行った。
3. 図書館ボランティアの日	4/22, 5/27, 6/24, 7/5, 8/26, 9/16, 10/28, 2/25	視聴覚室、他	一般町民	12回 延59名	シニア層を中心としたボランティアの参加があり、除籍本のシール貼りを中心に活動が行われた。参加人数が減少しており、新たなボランティアの発掘に取り組んでいきたい。
4. 図書館体験の日	7/26～8/10	図書館内	小・中学生 高校生	小学生8名 中学生2名 短大生1名	児童・生徒が図書館に親しみ社会参加する機会となっている。今年度は募集対象ではない短大生の参加の希望があったが、柔軟に対応し参加受入をした。

課題3 にこにこ深めるコミュニケーション

<図書館グループ>

事業名	期日	場所	対象 募集人数	参加人数	反省・評価
1. ユニットライブラリー	通年	町内2ヶ所	児童・一般	貸出冊数 918冊	どちらのユニットも高齢者や子ども達など地域住民の交流の場としても利用されている。本のリクエストへの対応等管理人と協議しながら利用強化に向けて取り組んでいる。
2. 図書館フェスティバル	10/1~9	図書館	町民一般	延1,007名	今年度もフェスティバルにより多くの方に関わっていただくために関係団体による実行委員会を開催し、各行事のボランティア等分担して行った。また今年度は図書館と歩む会主催による「絵本作家あべ弘士講演会」等を開催し多くの参加者に恵まれた。
3. 郷土資料の充実と目録の作成	随時				郷土資料室の計画的な整理を行っている。

課題4 いきいき支え合う高齢社会

<図書館グループ>

事業名	期日	場所	対象 募集人数	参加人数	反省・評価
1. 古典文学講座	5/21, 6/18, 7/16, 8/20 9/24, 10/15, 11/19 12/17, 1/21, 2/18	視聴覚室	町民一般	10回 参加者25名 延150名	美幌高校の協力により講師の派遣を受け「伊勢物語」をテキストに講座を実施した。シニア世代が学ぶ場として今後も継続したい。
2. お楽しみ文学館	4/8, 5/13, 6/10, 7/8 8/12, 9/9, 10/14, 11/11 12/9, 1/13, 2/10	視聴覚室	町民一般	12回 延160名	参加者の誘い合い等により昨年より参加者が増えている。シニア世代の交流の場ともなっており、今後さらに内容の充実とPRを図りたい。

課題5 のびのび高める豊かな学習

<図書館グループ>

事業名	期日	場所	対象 募集人数	参加人数	反省・評価
1. 図書館施設開放事業	通年	視聴覚室 ギャラリー展示 読書会室・談話室 ギャラリー	団体 団体・個人 団体 個人	49件 延398名 8回 51件 延433名 559件 971名	サークル・町内保育園・幼稚園・学童保育などの利用があった。 町民の作品発表の場として利用された。今年度も新たな呼びかけにより高校の学習成果の発表があった。今後も作品・学習成果の発表の場としての利用を広く個人・団体に呼びかけたい。 町民の学習の場として利用された。学習から一般まで広く使う場所のためマナーを徹底した上で広く開放したい。
2. レファレンスサービス	通年	個人・団体		202件	図書館の資料を活用した調査について利用者の要望に応えることを基本として対応した。レファレンスサービスについて知らない図書館利用者も多いため今後さらに周知が必要である。
3. 無償譲渡コーナー	6/7~19, 10/4~9 12/6~18, 3/6~18	図書館内	町民一般	4回 延205名 3,356冊	図書館の廃棄本について無償譲渡を実施した。今後も限られたスペースの確保のためにも定期的に無償譲渡を実施し町民に還元していきたい。
4. 「まち・ひと・ほん」のコーナー	随時	図書館内	町民一般	1回	講演会等町内行事にあわせて各機関との連携のもと特設コーナーを設けた。
5. 宅配サービス	随時		町民一般		事情により図書館に来ることのできない方の家に宅配しているが、今年度については利用が無い為PRが必要である。
6. ふらっとギャラリー	3/8~22	ギャラリー	町民一般	1回	博物館との連携のもと博物館所蔵資料の展示を行った。広く町の所蔵する資料を公開する良い機会となった。

図書館グループ 学習基盤整備の評価

課題1 わかりやすい情報を伝えるために～情報提供の体制整備

<図書館グループ>

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
ホームページのさらなる内容充実	図書館ホームページの開設 来館者用インターネット端末の設置 各種広報活動	平成17年の開設以来、美幌町図書館ホームページでは図書館のPR、図書の検索、紹介等の情報提供を行ってきた。今年度は新たに「絵本とあそぼ！写真館」のページを開設し、事業「絵本とあそぼ！」について参加者の写真やプログラムなどを掲載し、事業のPRに努めた。
他図書館とのネットワークの確立	図書館情報システムの整備及びインターネットによる蔵書公開	インターネットを活用し、図書館の資料について自宅等で検索できるよう蔵書公開を行っている。また他の図書館との連携により他の図書館の本を美幌町図書館にて貸し出しする「相互貸借」を行っている。
「図書館だより」の内容充実	図書館通信の掲載（美幌町広報内 年2回） 図書館だよりの定期発行（投稿BOXによる利用者参加の工夫） こどもとしょかんだよりの発行 中学生向け図書館だよりの発行 図書館要覧の発行	「図書館だより」「こどもとしょかんだより」については計画どおり定期刊行することができた。「中学生向け図書館だより」については今年度発行することができず、来年度の課題としたい。なお「図書館だより」においては美幌俳句会の会員の俳句を掲載しており、利用者による学習発表の場ともなっている。
図書リスト等各種目録の充実	新着図書案内 特集コーナーの設置 各種図書目録の作成 図書館お知らせコーナーの設置	「新着図書案内」については館内にて毎週入書した全資料のリストの作成、図書館ホームページ・図書館だよりに新着図書情報を掲載している。その他特集コーナーを設置し魅力ある本棚作りに努めた他今年度は自然科学の図書を紹介する「しぜんかがくの本棚」リストを作成し、博物館に配布を依頼した。

課題2 学びの手助けを充実するために～学習支援体制の整備

<図書館グループ>

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
職能向上を図る研修機会の充実		管内の研修会への参加の他、自館においても選書の際に各職員が分担して図書情報を調べ提案する等通常の業務の中での職能向上に努めた。
ボランティアの発掘養成及び協力体制の充実		読み聞かせボランティアについて館内でのポスター掲示や町広報への掲載などによる参加者の募集を行った。

課題3 魅力ある学び場とするために～施設の整備

<図書館グループ>

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
視聴覚機器及び資料の充実	ビデオコーナーの設置 朗読CD及びDVD視聴コーナーの設置	平成14年に設置したビデオコーナーにおいては幼児のアニメビデオ視聴を中心に利用されてきたが、今年度2台のテレビデオが故障し、現在使えない状況となっているため今後の修理、買い直し等について検討が必要である。また今年度は国の交付金を利用し朗読CDの購入を行った。視聴コーナーの設置に向けさらに整備を行いたい。

博物館グループ 実施事業の評価

課題1 すくすく育む子どもの学び

<博物館グループ>

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. びほろふるさと体験隊	5/22, 6/25, 7/23, 9/17~19, 10/15, 10/29,	博物館 マナビティセンター 美幌町内	小学3~6年生 (定員30名)	延10名	社会教育グループと連携しながら、様々な体験活動「街探検」「夜の生きもの観察」「自然キャンプ」「秋の味覚探し」「サケ観察」「雪山散策」等を実施することができた。
2. 夏休み子ども自然教室	7/27, 28, 8/6	博物館 美幌町内	小学4~6年生 (定員12名)	延9名	野外での動植物の観察と採集、および室内での様々な標本づくり、ネイチャークラフト等行うことができた。年々、参加人数が減少しており、日程および運営方法の改善が必要だと思われた。
3. モノづくり講座	6/3. 4. 5. 7/30, 8/13. 9/10, 9/10, 10/7. 8. 9, 11/12, 13, 12/3, 10, 23. 24, 1/27. 28. 29, 2/17.	博物館	小学生~一般 (定員8~36名)	延305名	身近な材料を用いた工作「まが玉づくり、ガラス玉づくり、毛針づくり、布ぞうりづくり、草木染め、ミニジオラマづくり、消しゴムはんこづくり、キャンドルづくり、折りびなづくり、スノードームづくり」を行うことができた。テーマにより参加者数は変動するものの、総じて参加者も多く内容も充実している。
4. 子ども工作教室	8/2	博物館	小学3年生~中学3年生 (定員13名)	12名	自分たちで、はんだごて等の器具を用いて電子基板回路を組み立て、「鳴く小鳥模型」を完成させることができた。作業に個人差があるのと、工作レベルが子どもにしては高かったこともあり、参加者全員が、設定時間内で終了することができなかつた。工作レベルの検討が必要だと思われた。また、材料等、全て博物館予算で対応したが、次年度からは材料費等は、個人負担の方向で考えている。
5. 夏休み自由研究相談室	8/3, 4	美幌博物館		延3名	児童・生徒を対象にして、夏休みの自由研究(動植物等)の相談を行った。参加者が少なく、広報のしかた、内容など検討の必要がある。
6. 美幌高等学校と連携した自然学習の実施 ①環境セミナー ②野外実習「サケの遡上」 ③自然プロジェクト学習	8/24, 9/21・28 10/20 通年	美幌高等学校 美幌町内 美幌町内 美幌高等学校	1年生 2年生 2~3年生	延81名 73名 延50名	「農業と環境」というテーマで、学芸員のそれぞれの専門に合わせて、「美幌の自然」「美幌川にすむ魚」「植物たちの戦略」という3テーマで講演を実施した。また、美幌川において、サケの産卵床の様子や形態等について、野外で詳しく観察した。室内での講演会、および野外における観察会を通して、美幌の自然に関する認識を深めることができた。さらに、課外テーマ学習として、「特定外来種ウチダザリガニ防除活動」をテーマにして、現場調査やザリガニ肥料化実験を博物館と連携しながら行ったりでき、自主的な自然学習の実践を進めることができた。
7. 小学校と連携した体験学習の実施 ①東陽小学校6年生「火おこし体験」 ②活汲小学校5・6年生「土器づくり」 ③美幌小学校5年生「まが玉づくり」 ④旭小学校2年生「生きもの観察」 ⑤活汲中学校「紙すき体験」 ⑥東陽小学校6年生「地層観察」 ⑦東陽小学校4年生「生きもの観察」 ⑧美幌小学校アウトドアクラブ「火おこし体験」 ⑨活汲小学校5・6年生「土器づくり」地層観察	5/20 6/27 6/30 7/8 7/14 9/16 9/29 10/27 11/8	博物館 博物館 博物館 美幌町内 博物館 美幌町内 美幌町内 博物館 美幌町内		60名 10名 80名 43名 15名 58名 53名 21名 13名	学校の先生方と打ち合わせながら、授業の中で、自然体験、歴史体験、工作体験など実施することができた。
8. 自然講座	6/18, 19, 7/9, 10, 9/24, 25, 10/2, 11/5, 6, 3/25	博物館 美幌町内	一般 (定員30名)	延186名	「高山植物」「ホタル」「貝」「野外生活技術」「サンショウウオ」「自然情報交換」等のテーマで、身近な自然を題材に、講演や野外観察を通して、美幌の自然に興味・関心を抱いてもらうことができた。
9. 子どもの日無料開放	5/5	博物館		519名 (入館者数)	柏餅・せんべいづくり、工作教室等を企画して、親子で博物館に親しんでもらうきっかけづくりを行う1ことができた。
10. 企画展「冬季作品展」	2/5~3/4	博物館		567名 (入館者数)	冬休みの町内小中学生の作品を一同に展示し、作品を通じての交流を図ることができた。
11. 交通安全ポスター作文展	11/6~11/27	博物館		314名 (入館者数)	交通安全に関する町内小中学生のポスターを一同に展示し、作品を通じての交流を図ることができた。

課題2 わくわく広げるボランティア活動

<博物館グループ>

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. 協力員らを変えた動植物生態調査	通年	博物館 美幌町内	学芸協力員らの有志	延312名	町内外における動植物の分布・生態調査、外来種の防除作業等を、地元民間団体、学芸協力員、自然に興味がある一般の方々等に協力してもらいながら進めることができた。
2. 協力員らを変えた展示物・標本等の作成、および既存資料の整理、各種講座の運営補助	通年	博物館 美幌町内	学芸協力員らの有志	延128名	調査活動により採集された動植物の標本作成、各種講座(「自然講座」「子ども工作教室」「びほろふるさと体験隊」)の運営補助・現場観察における指導者として、企画展等(「テーブルの上のホネ展」「第1展示室の展示修繕」)の展示準備等、地元民間団体、学芸協力員、博物館活動に興味がある一般の方々等に協力してもらいながら進めることができた。

課題3 ここにこ深めるコミュニケーション

<博物館グループ>

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. 博物館情報の提供	通年		一般		町広報紙（毎月）、博物館情報紙、博物館ホームページ等を通じて、博物館の活動・行事案内、自然や歴史に関する情報を、広く一般に提供し、町内の風土に興味・関心を抱いてもらうきっかけづくりを行うとともに、博物館活動を介して、地域の中で活動する場の提供を行うことができた。

課題5 のびのび高める豊かな学習

<博物館グループ>

事業名	期日	場所	対象募集人数	参加人数	反省・評価
1. 企画展・特別展	通年	博物館 図書館 国保病院 しゃきっとプラザ 峠の湯びほろ			「美幌の縄文文化」「寄贈資料展」「寄贈美術資料展」「交通安全ホース作文展」「冬季作品展」「テーブルの上の林展」等の企画展、「雨季」「花季」「風季」「読季」等の展示、移動展「美幌の縄文文化」（図書館との連携）「美幌の四季」（峠の湯びほろとの連携）「絵画・写真展」（しゃきっとプラザ・国保病院との連携）を企画し開催できた。美幌の自然・歴史・農業等について、展示を通して広く一般町民に興味を抱いてもらうきっかけづくりを行うことができた。
2. 自然講座	6/18, 19, 7/9~10 9/24~25, 10/2 11/5, 6, 3/25	博物館 美幌町内	小学生~一般 (定員30名)	延190名	「高山植物」「ホタル」「貝」「野外生活技術」「サンショウウオ」「自然情報交換」等のテーマで、身近な自然を題材に、講演や野外観察を通して、美幌の自然に興味・関心を抱いてもらうことができた。
3. 展示・常設展	通年	博物館	一般		美幌の自然・歴史・農業等をテーマにした展示を利用してふるさと学習に活用することができた。
4. 国際博物館の日記念事業	5/21	博物館	一般	113名 (入館者数)	国際博物館の日を記念して、学芸員が解説つきで、標本資料等の解説、民具遊びなどを行い、博物館資料を通して学習を深めることができた。
5. 協力員らを交えた動植物生態調査	通年	博物館 美幌町内	学芸協力員ら	延312名	町内外における動植物の分布・生態調査、外来種の防除作業等を、地元民間団体、学芸協力員、自然に興味がある一般の方々等に協力してもらいながら進め、調査を通して自然に関するより深い知識・体験を経験することができた。
6. 協力員らを交えた展示物・標本等の作成、および既存資料の整理、各種講座の運営補助	通年	博物館 美幌町内	学芸協力員ら	延128名	調査活動により採集された動植物の標本作成、各種講座（「自然講座」「子ども工作教室」「びほろふるさと体験隊」）の運営補助・現場観察における指導者として企画展等（「テーブルの上の林展」「第1展示室の展示修繕」）の展示準備等地元民間団体、学芸協力員、博物館活動に興味がある一般の方々等に携わってもらうことで広く自然や歴史等の学習を提供することができた。
7. 歴史講座	10/1, 23, 11/19	博物館 美幌町内	小学4年生~一般 (定員10名)	延29名	「粘土をこねて土器をつくろう」「アンギン編みに挑戦しよう」というテーマで、歴史講座を開催することができ、歴史に関する興味・知識を深めることができた。
8. プチ工房		博物館	一般	延337名	来館者が自分の都合の良い時間に、自由に工作を体験することができる形式とし、「まが玉づくり、紙すきはがきづくり、平編みプレスレットづくり、草木染め、カスタネットづくり、マイ箸づくり、はんこで模様つけ、手作りバスボム、折り染め和紙づくり、マイ手帖づくり」をテーマにして行うことができた。

博物館グループ 学習基盤の整備の評価

課題1 わかりやすい情報を伝えるために～情報提供の体制整備

<博物館グループ>

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
町広報紙への館情報の掲載	毎月、町広報紙「博物館だより」の掲載	毎月、町広報紙の「博物館だより」に、美幌の自然・歴史等の情報等を掲載し、ふるさと情報を伝えることができた。
博物館ホームページの内容充実	随時、博物館ホームページの更新	随時、博物館ホームページを更新し、博物館の行事予定、美幌の自然や歴史等の情報を掲載・伝えることができた。
データベース化された博物館資料や、自然・歴史情報の収集提供	随時、博物館資料のデータベース化を進める	町民等から寄贈された資料、学芸員が収集した自然・歴史資料など、随時データベース化を進めた。

課題2 学びの手助けを充実するために～学習支援体制の整備

<博物館グループ>

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
学芸担当職員と管理担当職員の適正配置		
学芸協力員を交えた学習支援体制づくり	インターネットを媒介にした学習相談 応対による体験学習や講演等の相談	メール等で問い合わせがあった学習内容等について、随時回答を行った。また、小学校や高等学校の連携授業の実施や、家庭教育学級研修会の実施、その他講演会・体験事業の実施等に関する相談を随時行った。

課題3 魅力ある学び場とするために～施設の整備

<博物館グループ>

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
常設展示の更新	博物館第1展示室の修繕	新しく第1展示室内に、新展示コーナーを設置することができた。

スポーツ振興グループ 実施事業の評価

課題1 すくすく育む子どもの学び

<スポーツ振興グループ>

事業名	期日	場所	対象者 募集人数	参加人数	反省・評価
1. 中学生トレーニング教室	(美中) 9/16, 20, 21, 22, 26 (北中) 9/29, 30, 10/3, 4, 5	トレーニングセンター	中学3年生 (各中学校30名程度)	美中26名 北中12名	トレーニング器具の使用方法以外に理論や実技を通し、積極的に受講する姿勢が伺えた。教室終了後も継続してトレーニングに励んでいることから、運動の継続化が図られた。
2. 幼児の体力テスト体力向上プログラム	5/9~18 10/27, 11/2	東陽・美幌保育園 田中・中央保育所	4~6歳児	119名 42名	春の体力測定の結果からは、昨年と比べ大きな変化は見られなかったが、体力傾向が平均的に下回っていた保育所をモデルに実技指導をし、遊びを通して楽しさと効果的な運動プログラムを保育士へ提供することができた。
3. 感動体験スポーツ研修	8/4~7	大雪青少年交流の家	小学3年 ~高校生	38名	天候にも恵まれ、予定していた十勝岳登山を実施することができ、子ども達に大きな感動や達成感、また多くの仲間と交流を深めることができた。
4. ふるさとガイド!きたミシュラン ~探せ!ふるさと五つ星~ (北見地区広域社会教育推進協議会主催事業)	夏7/8~10 冬2/18	津別町生活改善センター 美幌町トレーニングセンター 美幌町トレーニングセンター 大正橋スケートリンク	小学4~6年生 (定員40名) 小学4~6年生 (定員40名)	24名 25名	1市4町(北見市・置戸町・訓子府町・津別町・美幌町)の子ども達を一堂に会し、自然体験を通し北見地区の自然環境の素晴らしさを理解させ、視野の広い人材の育成が図られた。
5. 水泳技能認定会	10/27	B&G海洋センター	小学生~高校生	50名	水泳少年団により実施し、認定証を交付した。
6. B & G財団事業への派遣等	7/28~8/2 8/7 8/17~22 9/17	沖縄県 東川町 小笠原 みどりの村	小学5年~中学生 小学生 小学5年~高校生 小学生以上の親子	0名 18名 1名 4組11名	体験セミナー~派遣なし B & G北海道スポーツ大会水泳の部(水泳少年団~選手16名 監督・コーチ2名派遣) 体験クルーズ~美幌高校1年 横山大輝 親子ふれあい自然体験~親子4組 11名
7. サタ☆スポ(土曜日学校体育館開放)	通年 (5~9月、冬休み期 を除く) 主に第2・第4土曜日	美幌小学校 東陽小学校 旭小学校	小学生~ 一般町民	7回 259名 9回 105名 7回 299名 計 663名	スポーツ推進委員、トレーニングルーム運営指導員の配置により、子ども達のレベルやニーズに応じて適切な指導により、外遊びする機会が減少している冬の時期など運動・スポーツの機会を提供し、子ども達の体力向上に役立てられた。
8. スポーツ少年団の育成 1 ジュニア野球 10 旭ベースボール 2 クロスカントリースキー 11 ラグビー 3 柔道 12 剣道 4 スピードスケート 13 陸上 5 UF0サッカー 14 銃剣道 6 水泳 15 仲2スピリット野球 7 トランポリン 16 ソフトテニス 8 大東流合気武道 17 ジュニアアルペン 9 ミニバスケットボール 18 旭バレーボール	随時	美幌町内	幼児~高校生	登録団員数 465名 登録指導者数 104名	・スポーツ少年団の活動援助 1)スポーツ少年団活動を通して心身ともに健全な青少年の育成を図るため登録少年団の常時活動を支援した。 2)スポーツ少年団本部活動の指導・援助 ①宿泊研修(大雪青少年交流の家) ②体力測定会 ③子どもスポーツフェスティバル ④常任理事会 ・スポーツ少年団の結成促進 未組織スポーツのグループ化と本部未登録少年団指導者の組織化を図る。
9. 冬季スポーツの体験教室 「川端絵美さんのアルペンスキー体験教室」	1/15	リリー山スキー場	小中学生 (定員50名)	39名	北海道教育庁による主催事業でアルペンスキーの元オリンピック日本代表選手の川端絵美さんを講師としてスキーの体験教室を開催し、地元スキー連盟指導員が補助しながら子ども達一人一人にアドバイスをいただき、気温の低い中であつたが子ども達は休まず生き生きとしておりスキーの楽しさを十分に味わい貴重な体験となつたと思われる。

課題2 わくわく広げるボランティア活動

<スポーツ振興グループ>

事業名	期日	場所	対象者 募集人数	参加人数	反省・評価
1. スポーツ指導者等講習会 「コーディネーショントレーニングを学ぶ会」	1/22	マナビティーセンター あさひ体育センター	成人一般 (定員50名)	41名	NPO法人日本コーディネーショントレーニング協会専門講師2名から子ども達や高齢者にも運動機能を司る神経系の機能向上を図る運動・トレーニングを理論と実技を通し学ぶことができ、今後のスポーツ活動や指導者の資質向上が図られたが、さらに具体的な手法や指導者の養成を図ることが必要であると思われる。
2. レクリエーションダンス講習会	11/30	スポーツセンター	成人一般 (定員50名)	53名	初心者から経験者までわかりやすい指導で楽しくダンスを習得することができ、今後の活動に活かせる。
3. 体育協会の活動援助 ①町民と体育を語る夕べ ②スポーツ講演会・体育賞表彰 ③スポーツ研修会 ④体育施設の維持管理委託業務	随時	美幌町内	町民一般		スポーツの振興・競技力の向上を目指し、体育協会及び各単位団体に対し、指導・助言を行い、あさひ体育センター・B&G海洋センター・大正橋パークゴルフ場・野球場・スキー場圧雪降雪業務などの施設維持管理とスポーツ講演会・実技指導などの事業開催を通し各種加盟団体との連携により、様々なスポーツの提供や環境整備に努めることができた。
4. 総合型地域スポーツクラブ自立支援 ①各種スポーツ教室の開催 ②スポーツイベントの開催 ③各種研修会の参加・開催 ④各種スポーツ活動の支援 ⑤各種スポーツ情報の提供 ⑥指導者の育成支援	随時	美幌町内	町民一般	会員数 1,184名 事業参加者 延2,780名	生涯スポーツの普及振興を図るため、総合型地域スポーツクラブの活動を支援し運営体制の育成強化をすすめ、クラブの運営に対し指導・助言を行った。地域住民への理解と各種事業の展開により、多くの参加者を得ることができ、会員の拡大を図ることができた。今後事務局、指導体制も含め行政支援とともに自立したクラブ運営に向けさらなる事業の拡大や住民のニーズにあった事業展開を進めていく必要がある。
5. 全道大会開催の支援 ①高松宮賜杯第55回全日本軟式野球北海道大会 ②第12回北海道ラージボール卓球大会	7/8～11 9/24～25	柏ヶ丘公園野球場 スポーツセンター		29チーム 延600名 230名	2部6試合を美幌町で開催 20～90代の男女180名、役員50名 混合ダブルス4部門、男女ダブルス8部門、男女シングルス12部門
6. スポーツ団体合宿事業 ①明治大学ラグビー部 ②NECラグビー部	7/31～8/13 8/13～25	あさひ広場公園 多目的運動広場 柏が丘陸上競技場	大学生 社会人	113名 60名	・明治大学ラグビー部(14日・グランドホテル他) ・NECラグビー部(13日・グランドホテル) 合宿実行委員会によりチームの受入や宿舎との調整・練習環境の整備など両チームにとって充実した合宿ができたものと思われる。地域住民の理解や実技指導などの交流機会により、競技力・指導力の向上等スポーツの振興が図られ、地域の経済効果も多大である。

課題3 にこにこ深めるコミュニケーション

<スポーツ振興グループ>

事業名	期日	場所	対象者 募集人数	参加人数	反省・評価
1. 町民交歓パークゴルフ大会	9/11	河畔公園 パークゴルフ場	町民一般 自治会単位他	自治会 13チーム 家族 4チーム 個人 4名 計 107名	自治会連合会体育部会が主管し、自治会の部、家族の部、個人の部を設け団体または個人対抗の競技で実施し、107名の参加があった。パークゴルフを通じて、自治会での連帯感や町民の交流機会としてコミュニティの形成に役立てられたものと思われる。
2. 町民体育祭	通年	町内施設	町民一般	夏 1,158名 (18種目) 冬 455名(5種目)	体育協会加盟団体により各種競技大会を開催し、広く町民にスポーツし親しむ機会と交流機会を提供することができ、団体・サークル等の活動の促進や地域の連帯感を図ることができたと思われる。
3. 学校体育施設開放事業	随時	美幌小学校 東陽小学校 旭小学校 北中学校体育館 各学校グラウンド	町民一般	11団体219名 9団体281名 7団体120名 9団体126名	学校体育施設を有効に活用し、利用団体の適切な自主管理運営に努めるとともに地域のスポーツ活動促進並びに町民の交流機会の提供が図られた

課題5 のびのび高める豊かな学習

<スポーツ振興グループ>

事業名	期日	場所	参加人数	反省・評価
1. 高校生トレーニング教室	12/5, 7, 9, 12, 14	トレーニングセンター	高校生 (定員30名)	8名 参加人数が少なかったが、受講態度やマナーがよく真剣にトレーニングに取り組んでおり、トレーニング理論や栄養講話など、受講者にとって今後のスポーツ活動に役立てられるものと思われる。また、入場許可証を取得し、継続的に使用することで体力・競技力の向上が図られた。
2. トレーニング教室	(春期) 5/30., 6/1, 3 (秋期) 10/12, 19, 26	トレーニングセンター	成人一般	4名 21名 器具の使い方や栄養士の健康講話などから、自分の生活習慣を見直す意識が見られ、運動と食事の大切さを伝えることができた。熱心に聞き入る参加者が多く、教室終了後も参加者した仲間とトレーニングルームを使用しており、運動の継続化が期待できた。秋は託児を無料で設けたことから、参加者の半数以上が子育てをする母親の参加であり、運動不足の解消が図られた。
3. スポーツ教室開設事業	随時 (7教室開催)	町内公共施設	町民一般	延157名 スポーツクラブBeetに委託し実施した。新規にサッカー、ソフトテニス、硬式テニスなどを実施し、スポーツの継続化のきっかけづくりや子ども達の体力向上・スポーツ愛好者の底辺拡大に繋がった。今後もスポーツクラブBeetと連携し、住民のスポーツニーズを捉えながら取り組んでいくことが重要である。
4. チャレンジデー	中止	町内全域	全町民	東日本大震災の影響により、参加を見送った。
5. B&G会長杯町民水泳大会	7/24	B&G海洋センター	小学生～ 一般町民	66名 水泳少年団や一般水泳愛好者が、錬磨の成果を発揮し、大会新記録が多数出るなど、盛会裡に終了した。
6. ビホロ100kmデュアスロン大会	8/20.21	美幌町	成人一般 小学3～6年生 チーム	232名 28名 10チーム20名 二人一組でランとバイクの担当に分かれて走るチームの部を新設。震災の影響で前年優勝者など参加できない選手もいたが、参加人数はチームの部を新設したこともあり昨年より若干の増となった。ボランティアも350名ほどのスタッフの協力により、大きな事故やケガもなく無事終了することができた。
7. トレーニング機器によるトレーニング指導	通年 火・金曜日 (夜間) 月・木曜日 (午前中)	トレーニングルーム	町民一般	トレーニングルーム運営指導員を指導日に1名配置し、体力テストやトレーニング器具の使用方法などの指導を受け、個人で使用可能となったうえでトレーニングルーム入場許可証を発行し、継続的な利用と適切なトレーニングをアドバイスしている。 入場許可証の発行総数が5500件を超え、今後利用の拡大を図るとともに器具の更新整備に努める必要がある。
8. 体力測定	1/28	町内施設	町民一般	177名 町民体力測定会を実施。
9. 各機関・団体への体育指導	随時	スポーツセンター トレーニングセンター	町民一般	38名 15名 JAびほろ 12/1 ライオンズクラブ 3/7
10. 全国・全道競技大会選手派遣事業	随時			現在11団体 (全道6競技 全国5競技) 1,049千円補助金を交付見込み
11. スポーツ関係団体連絡調整会議		関係機関・団体		センター使用プログラム調整会議 (4/11) 屋外運動場 (陸上・サッカー・ラグビー) 調整会議 (4/21)
12. 関係部局等への指導協力 学校教育関係 体育授業への外部指導者派遣の支援 民生部事業関係 子育て支援ミニスポーツ教室 社会教育事業関係 家庭教育学級 明和大学体育クラブ、パークゴルフクラブ フレッシュママセミナー 親子ですくすく教室	随時	美幌町内	町民一般	・学校授業へ地域の指導者を派遣し、体育授業の効果的な学習の充実を図った。 (水泳・スケート・スキー) ・総合的な学習の時間への講師派遣 (水辺の安全教室、タグラグビー、バドミントン) 藤幼稚園 (軽スポーツ指導、幼児体力測定)、大谷幼稚園 (幼児体力測定)、2園合同スポーツ交流会

スポーツ振興グループ 学習基盤の整備の評価

課題1 わかりやすい情報を伝えるために～情報提供の体制整備

＜スポーツ振興グループ＞

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
各関係機関・団体との情報の共有	学習相談、窓口・電話相談	関係団体等の活動状況や本町在住者並びに出身者の競技成績等の把握など情報の共有を密にするため、インターネット等を活用し各関係団体との連絡体制を図りつつ適時互いの情報の収集・提供に努める必要がある。
ホームページなどコンピュータを活用したわかりやすい情報の提供	広報活動『町広報』『びほろっ子プレイガイド』への掲載（随時）町HPでの掲載	随時、広報紙などの紙媒体を利用した情報提供や町ホームページを活用して情報提供した。また、スポーツクラブによる情報誌の発行などにより適時情報を提供することができた。
施設利用状況等の情報提供の工夫	施設掲示板、庁内LANスケジュールの活用や報道関係週間行事予定への掲載	各施設の利用予定を年度当初に調整会議で調整を図り、スポーツセンター窓口等による使用申請により、随時効果的な利用に努めている。電話等による利用状況や使用方法の照会等並びにFAX・インターネット等を活用した使用申請の簡素化など工夫に努めている。

課題2 学びの手助けを充実するために～学習支援体制の整備

＜スポーツ振興グループ＞

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
地域指導者の把握と支援体制の整備	スポーツ少年団登録指導者、体育関係団体との連携	地域指導者を把握し、資質向上を図るための研修機会の提供や活動における支援助成など、今後もスポーツクラブなどを通じ指導者の育成や体制の整備に努めていくことが求められる。
各団体や地域・学校体育指導者との連携強化	学校体育授業等への学部指導者派遣 地域指導者への活用支援	各競技団体と地域の関係機関や学校との連携を図りながら、体育授業や教員の体育指導に外部指導者を派遣するなど連携が図られた。
スポーツボランティアの育成と活用	スポーツ推進委員（会議 年3回） トレーニングルーム運営指導員（会議年6回） オホーツク管内社会体育振興センター兼北見・網走ブロック体育指導委員研修会（網走市） 社会体育センター講座（大空町） 北海道スポーツ指導者研修会（札幌市）	研修機会を提供し指導者の育成並びにスポーツ活動への活用支援を行い、デュアスロン大会等スポーツボランティアを活用しながらスポーツ行事の運営に努めた。 (11/26～27) スポーツ推進委員 4名、担当職員 1名出席 (6/21) スポーツ推進委員 5名、担当職員 1名出席 (1/8) トレーニングルーム運営指導員2名出席
生涯学習推進アドバイザーの継続配置	生涯学習推進アドバイザーの継続配置	今後も適正な人的配置が望まれる。

課題3 魅力ある学び場とするために～施設の整備

＜スポーツ振興グループ＞

課題解決のための取り組み	平成23年度事業計画の記載事項	反省・評価
屋内体育施設 ①トレーニングセンター施設の年次的修繕	消防設備等修繕、トレーニングセンターロビー照明修繕	消防用設備点検に伴い、設備の修繕とトレーニングセンターロビーの照明の取替修繕など適時修繕を行った。
②トレーニングルーム器具の計画的な更新・整備	スーパーインプレスベンチの新規購入	トレーニング器具の新規購入や器具の点検整備や修繕を図り、安全で快適な体づくりの環境を整備した。
③海洋センタープールサイドフロアの修繕		平成23年度までにプール缶体の防水シート改修工事やバイオマスボイラーの設置工事を行い、平成24年度にはプールサイドの改修工事や給湯ボイラーの取替修繕、ろ過器の砂交換修繕等を実施することで、計画的な更新整備を図っていく。
④フットサルゴール等備品の整備		スポーツセンターアリーナはフットサルの利用によりゴール付近の暖房用ダクトの傷みが激しく計画的に修繕を進めることが必要である。
屋外体育施設 ①陸上競技場インフィールドの土壌改良		毎年の更新整備とあわせ、抜本的な土壌改良を行う必要があるが、計画的な更新整備により効率的な芝生の管理運営に努めていきたい。また、美幌中学校の新設グラウンドを芝生化することで今後の有効的な活用が図られる。
②パークゴルフ場の更新整備	ボールカップ・ピン・スタートゴムマットの更新、水呑場の修繕、プレハブ電気修繕、草刈機の修繕	体育協会への維持管理委託により、適切な管理運営が図られた。
③スキー場リフト設備維持補修	スノーモビル新規購入整備、圧雪車等修繕、リフト点検整備	スキー場の安全な管理運営のため、リフトの点検整備や圧雪車・降雪機の修繕、スノーモビルの購入など整備を行った。
④いなみテニスコート人工芝改修整備	支柱の塗装修繕、ネットの更新整備	オムニコート（砂入り人工芝）の全面改修には大規模な修繕費用がかかることから、投資的事業に乗せ計画的な整備を図ることと助成事業など効果的な更新整備が求められる。
⑤新設パークゴルフ場・室内多目的運動場の整備・検討	パークゴルフ協会との整備に係る打合せ会議の開催	打合せ会議において意見交換を図り、今後の整備検討を進めることで施設の整備充実を図っていく必要がある。
学校施設の開放 ①学校体育施設の効率的・効果的な利用と調整	学校開放利用団体調整会議の開催	地域のスポーツ活動の機会を提供するため学校施設を有効に利用し、効率的な管理運営を図るため利用調整会議を開催し、利用のマナーと適切な自主管理に努めた。
②美幌中学校体育施設の利用検討	美幌中学校のグラウンド新設芝生化工事	スポーツ振興くじ助成事業を活用し、移転する美幌中学校グラウンドの一部を芝生化し、地域住民に開放しすることで安全で快適なスポーツ環境の提供と競技大会等で円滑な運営に利用が期待できる。